

報 告 書

小学校低学年（第1・2学年）に対する 毛筆（軟筆）指導・導入に関する 研究及び検証

平成 27 年 3 月

全日本書写書道教育研究会特別研究委員会小学校部会

目 次

はじめに	3
1 研究の目的と方法	5
2 委員会の発足と委員会開催日程	7
3 研究授業実施校と日程	8
4 使用用具について	9
5 年間学習指導計画	10
第1学年	10
第2学年	12
6 授業案（学習指導案）	14
第1学年	14
第2学年	30
7 児童の文字の変容と考察	42
8 児童アンケート結果と考察	57
9 教員の感想	60
10 保護者アンケート結果	61
11 まとめ	62
12 委員会の記録	63
13 全日本書写書道教育研究会特別研究委員会 小学校部会 委員一覧	69

はじめに

理事長 長野 秀章

本研究会は、我が国の書写・書道教育の実践的研究組織として、半世紀以上にわたり時代の学習指導要領の具現化に向け、全国各地の研究組織及び各校種の先生方と歩みを一つに進めている研究組織です。

この報告書は、本会並びに要望書提出5団体で「書写・書道教育推進協議会」を設立し、平成25年の6月に文部科学大臣宛に連名で提出致しました小学校・中学校の要望事項（後掲）に関わる研究・考察を約1ヶ年かけてまとめたものです。

小学校の報告書（草綠色表紙）は、要望書の国語科書写に関するもので、第1、第2学年の低学年において鉛筆中心の硬筆指導をより充実するための実践的研究として東京都内の4小学校において毛筆（軟筆）を使用して実践した研究とその検証及び考察です。

中学校の報告書（黄色表紙）は、平成17年度文部科学省が実践いたしました教育課程の実態調査の3項目に「書写」が取り上げられましたが、教育課程が変わり、現行の学習指導要領のより確実な指導の充実を中心に要望しており、民間研究組織としてできる範囲での実態調査をアンケート等を中心に実施し、その研究と考察をまとめました。

これら、小・中学校の研究は直接的には、それぞれの要望事項に関する論証ということにはなりますが、要望書に関する6団体といたしましては、平成27年2月に第2回目の要望書に関わる具体的事項に示しましたように、小学校教員及び中学校教員に対しての実技講習会等に関わる具体的施策に対応するための研究にも繋がるものと考えます。

さらにこれらの研究が教員養成大学、学部における「書写」・「書道」に関わる授業改善やカリキュラム改善等にも発展する研究になると思われれます。

したがって、文部科学省並びに中央教育審議会及び各専門部会におかれましては、平成26年9月に別途提出いたしました94万人の署名の意義及びこの報告書の成果をご理解いただき次期学習指導要領改訂の際に生かしていただけますようお願いする次第です。

平成25年6月提出の要望書抜粋（小学校・中学校に関わる部分）

1. 小学校においては、国語科書写教育の一層の充実および硬筆の基礎となる毛筆を第一学年から取り上げ、文字の成り立ちや筆順に触れることなどから指導していただきたい。また毛筆が授業で確実に教えられるように、学校への指導を徹底していただきたい。
2. 中学校においては、国語科書写教育の一層の充実および学習指導要領に示された時間数を確実に実施していただくとともに、とりわけ毛筆による書写の学習等を通じて、我が国の言語文化の豊かさに触れるような実践を強く指導していただきたい。

平成 27 年 2 月提出の具体的な内容抜粋（小学校・中学校に関わる部分）

○小学校 国語科教育および国語科書写教育の一層の充実を希望する

①第一学年および第二学年

文字を手書きすることの意義に気付かせ、硬筆による書写の能力の基礎を養うため、硬筆の指導とともに毛筆を第一学年から取り上げていただきたい。

毛筆（水書など軟筆も含む）を体験することにより、硬筆の基礎が養われるよう指導していただきたい。当協議会は現在、小学校の協力を得て第一、二学年を対象に毛筆などの実験的授業を行っており、実施案をまとめた。

【時間数の明示】国語科の第一、二学年の時間数枠内に、「毛筆（水書など軟筆も含む）を使用する書写」の時間数を明示していただきたい。

②第三学年～第六学年

現行の学習指導要領に示された内容ならびに時間数を、確実に実施していただきたい。

毛筆を使用する書写の時間数は、年間三十単位時間程度となっている。

③全学年共通【評価欄の設置】

国語科の評価欄に「書写」の評価を加え、授業を確実に実施していただきたい。

【指導者の研修】国語科の「書写」指導を中心とした指導者研修を実施し、「書写」指導の確実な実施につなげていただきたい。当協議会は、講師派遣および指導教材作成につき協力する考えがある。

○中学校 国語科教育および国語科書写教育の確実な実施、一層の充実を希望する

現行の学習指導要領で、中学校国語科書写は小学校と同様「伝統的な言語文化と国語の特質」という事項に位置づけられ、従前より「毛筆は硬筆による書写の能力の基礎を養うこと」とされている。小学校の現行学習指導要領において、特に〔第五学年及び第六学年〕の中に、「穂先の動き」や「点画のつながり」など毛筆ならではの文言が加えられた。小学校国語科書写での学習が中学校国語科書写へとスムーズにつながることを考えると、毛筆を使用して書写の学習をすることがより重要であると考えられる。さらに、小学校での文字を正しく整えて書く整齊な技能を中学校の最初の段階では確かめ、それらの定着を図りながら高等学校芸術科書道への円滑な接続を考慮して、中学校の後半は文字の多様な美へ発展できる指導が行えるよう、時間数の確保と内容の一層の充実を図っていただきたい。

【評価欄の設置】国語科の評価欄に「書写」の評価を加え、授業を確実に実施していただきたい。

【文字文化に関する認識を高める学習】中学校の国語科書写から高等学校の芸術科書道への円滑な接続を図っていただきたい。

・身の回りの多様な文字に関心を持つことで、文字を手書きすることの意義に気付かせる授業を実施するよう指導していただきたい。

・文字の芸術性に関心を向ける素地を養うなど、文字文化に関する認識を深める授業を実施するよう指導していただきたい。

【指導者の研修】国語科の「書写」指導を中心とした指導者研修を実施し、「書写」指導の確実な実施につなげていただきたい。当協議会は、講師派遣および指導教材作成につき協力する考えがある。

1 研究の目的と方法

特別研究委員会小学校部会委員長 宮 絢子

■ 研究の目的

全書研特別研究委員会小学校部会の研究目的は、書写・書道教育推進協議会が文部科学省に提出した要望書、とりわけ小学校の内容についての授業をもとにした研究及び検証である。それらの授業実践から読み取れる要望書のエビデンスについて報告する。

・研究の経緯

平成26年4月、全書研の中にこの特別研究委員会小学校部会を置き、その委員会を全書研本部役員と東京都小学校書写研究会（並木玲子会長）の役員（校長職にある者）の10名で組織した。

要望書の内容を受け、対象は校長職にある役員の小学校4校の低学年、つまり第1・2学年とし、平成26年度の実践を通じた研究をまとめていくことにした。

従ってこの研究は、全書研と都小書研との共同研究という形をとっている。

・研究の概要及び確認事項

4校の役員校長（特別研究委員会小学校部会委員）と当該校の学級担任とで詳細に打ち合わせを行った。使用する用具は水書ペンと水書用紙とし、低学年の国語科書写の時間内に実施することとした。事前に以下の3点について確認した。

1. 国語科の学習指導要領に示された書写のねらいからそれないこと。
2. 硬筆による指導を一層充実するための実践であること。
3. 児童の発達や実態等に反すると判断した時は、速やかに中止すること。

・研究のねらい

この研究は低学年の国語科書写の学習において水書ペン等の用具が、硬筆書写の学習を一層充実させるであろうことを検証するための実践である。第3学年からスタートする毛筆による書写の学習の前倒し的な学習ではなく、あくまでも硬筆学習に資するための研究である。研究のねらいと目的は以下の5点である。

1. 水書ペンと水書用紙を使用したことにより児童の学習環境に改善が見られるような実践を行うこと。
2. それらの用具を使用することにより、これまでの硬筆中心の学習に一層の改善が見られる実践を行うこと。
3. この実践が、その学習後の児童の硬筆、とりわけ鉛筆の使い方や文字の形等に効果的であったかどうかを検証すること。
4. この実践が、その学習後の児童の硬筆用具の持ち方や姿勢等に効果的であったかどうかを検証すること。
5. この実践が、その学習後の児童の学校生活等において進んで硬筆用具を使って文字を書くということに効果があったかどうかを検証すること。

■ 研究の方法

1 授業実践を通して研究する

- ① 検証するための研究授業を行う。
- ② 本会の特別研究委員が校長として赴任している都内4小学校を対象校とする。
- ③ 現行学習指導要領の範囲内で、第1学年、第2学年の書写学習に毛筆（軟筆）を導入し、その学習効果を検証する。
- ④ 毛筆（軟筆）を導入できる単元について共通の授業案（学習指導案）を作成し、対象校で実践する。（第1学年、第2学年とも9単位時間分）
- ⑤ 水書ペンと水書用紙を用いた研究を行う。
- ⑥ 単元ごとに学習カードを作成し、記録として残す。

2 児童、教師、保護者からアンケートや感想をとる

- ① 児童を対象にアンケート調査を行う。
- ② 指導した教員から意見を求める。
- ③ 指導を受けた児童の保護者を対象にアンケート調査を行う。

3 結果の検証

- ① 授業案の検討を行い、特別研究委員会で協議し、改善する。
- ② 改善した授業案をもとに対象校（4小学校）で検証のための研究授業を行い、特別研究委員会内で公開し、協議する。
- ③ 学習カードを分析し、児童の書写技能の変容を把握する。
- ④ 児童へのアンケート調査を分析し、児童の意識の変容を把握する。
- ⑤ 保護者へのアンケート調査を分析し、保護者の意識を把握するとともに、用具の購入方法等を含め、実施に向けた検討の材料とする。

2 委員会の発足と委員会開催日程

■ 特別研究委員会発足決定（全書研役員会において）

平成26年2月17日（月）…………… 会場 南大塚文化創造館
メンバー人選

■ 第1回

平成26年4月3日（木）…………… 会場 南大塚文化創造館
研究内容確認 研究日程の概要確認 書写書道教育推進協議会への要望まとめ
その他

■ 第2回

平成26年5月8日（木）…………… 会場 東京家政大学
今後の主な予定確認 実践研究の方法確認 調査内容検討
実践研究視察決定 予算検討 その他

■ 第3回

平成26年5月28日（水）…………… 会場 東京学芸大学附属小金井小学校
実践研究視察（授業参観 研究協議）
今後の実践研究について確認 その他

■ 第4回

平成26年7月18日（金）…………… 会場 東京家政大学
指導形式・指導内容確認 授業案作成例 1時間の流れ確認
年間学習指導計画作成の手順 その他

■ 第5回

平成26年9月2日（火）…………… 会場 東京家政大学
水書き導入時間の授業案検討 水書きの活用方法検討
その他確認事項検討

■ 第6回

平成26年11月10日（月）…………… 会場 江戸川区立大杉第二小学校
研究授業公開 研究協議

■ 第7回

平成26年12月18日（木）…………… 会場 東京家政大学
低学年における毛筆（軟筆）の指導時数 研究のまとめ方
児童用アンケート・保護者用アンケート検討 その他

■ 第8回

平成27年1月16日（金）…………… 会場 東京家政大学
児童用アンケート結果分析 水書き実践の結果検討
研究のまとめプロット及び役割分担 今後の予定 その他

■ 第9回

平成27年2月20日（金）…………… 会場 東京家政大学
研究報告書原稿校正 その他

3 研究授業実施校と日程

実験校と実施日

特別研究委員会小学校部会の4名の委員（小学校長）の学校4校（1年生170名、2年生66名）で検証するための研究授業を実施した。

○江戸川区立大杉第二小学校（土上 智子校長）

1年生1学級、2年生2学級で実施

9月……10日（水）、18日（木）、25日（木）、29日（月）

10月……9日（木）、15日（水）、16日（木）、20日（月）、23日（木）、27日（月）

11月……6日（木）、10日（月）、17日（月）、20日（木）、27日（木）

○江戸川区立篠崎小学校（高島 一広校長）

1年生2学級で実施

9月……18日（木）、22日（月）

11月……12日（水）、14日（金）、17日（月）、18日（火）、19日（水）、20日（木）、21日（金）、

25日（火）、28日（金）

○葛飾区立東綾瀬小学校（並木 玲子校長）

1年生2学級で実施

11月……4日（火）、10日（月）、13日（木）、18日（火）、19日（水）、26日（水）、27日（木）

12月……1日（月）、4日（木）、8日（月）

○葛飾区立南奥戸小学校（玉置 克也校長）

1年生1学級で実施

10月……7日（火）、22日（水）、30日（木）

11月……6日（木）、11日（火）、18日（火）、27日（木）

4 使用用具について

(1) 水書用紙

市販されている半紙大の水書用紙を半分に切って使用した。

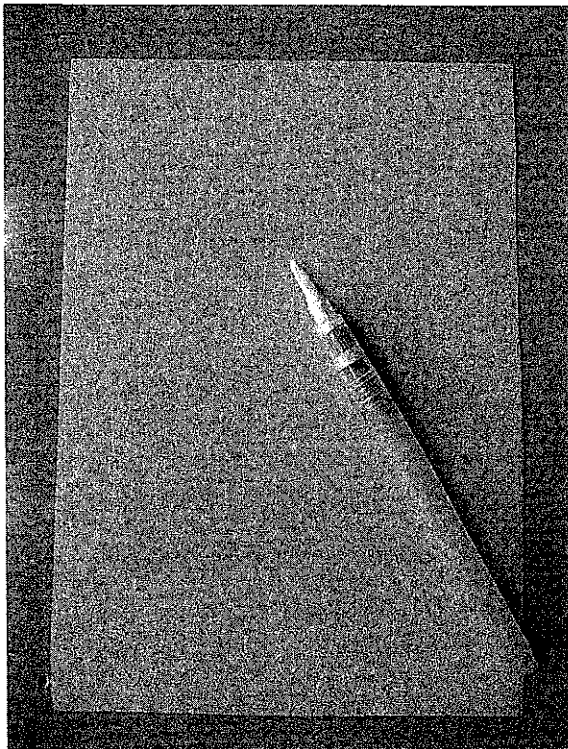
今回は、印刷等の加工はせずそのまま使用したが、マス目等を印刷機で印刷することもできる。

(2) 水書ペン

市販されている水彩画用の水書ペンを使用した。柄の部分は鉛筆の二倍程度の太さであるが、筆記用具の持ち方のくせを矯正するためには、太めの用具が適していると考ええる。

今回は、水書ペンを使用した。他にも、小筆に水を付けて使用することや、筆ペンを使用することもできると考える。

実物大

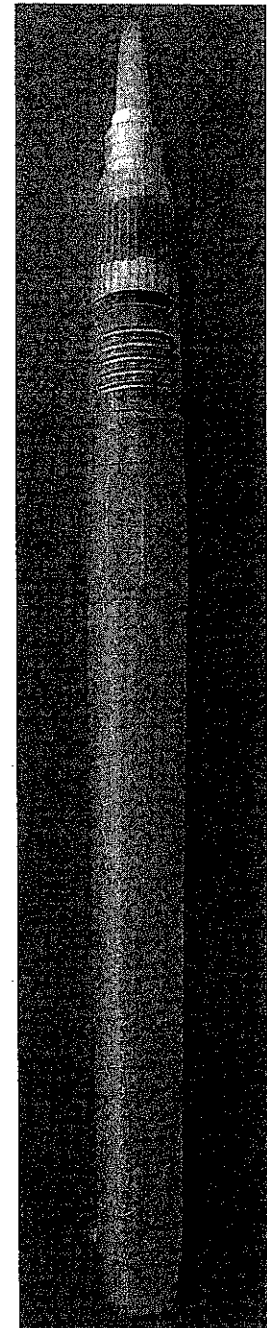


水書用紙

◇サイズ 縦 約25cm × 横 約17.5cm
(市販の水書用紙の半分の大きさ)

水書ペン

◇穂先の素材	ナイロン
◇穂の長さ	16mm
◇穂の太さ(最大)	5mm
◇筆全体の長さ(ふたなし)	171mm
(ふたあり)	180mm
◇水の容量	12ml



5 年間学習指導計画

【第1学年】……丸数字でかつゴシック体で示したところが本研究で「毛筆（軟筆）」を導入した単元である。

実施 時期	軟筆 使用	単 元 名	教 材 等	備 考
4月		・もじさがし		
	①	一 はじめの がくしゅう 「しせいと もちかた」 「 せん の れんしゅう」	横線・縦線・曲線	
5月	② ③	二 ひらがなの がくしゅう 「 おわり を とめるじと はらうじ」 「 かきじゅん 」 「じを かきはじめる ところ」	『くつ』 『ことり』	
6月	④	「 せん の とちゅうの かきかた」 「にている ひらがな」 「ますめの なかの かくところ」	まがり・おりかえし・むすび まがり・おりかえし	
7月		「じの かたち」 ・よこがきの かきかた ・ひらがなの ひょう	てん・まる・かぎ 外形（しかく・さんかく・まる）	
9月	⑤	三 かたかな の がくしゅう	とめ・はらい・おれ・まがり『レモン』	1・3時
10月	⑥ ⑦	四 かん字 の 学しゅう 「 かく の おわり の かきかた」 「 かく の とちゅう の かきかた」 「文字の かたち」 「かきじゅん」	とめ・はね・はらい『一』『小』『人』 おれ・まがり・そり『日』『七』『子』 外形『田』『四』『目』	
11月				
12月	○	「 かきぞめ 」	とめ・はね・はらい『お正月』	
1月		「 かく の ながさ と ほうこう」		
2月		・かいて つたえよう ・文字に ついて ・学年の まとめ		
3月		・いろいろな ひっきょうぐ ・一年生で がくしゅうする かん字		

第1学年 【軟筆】の活用について

1 目的

- 書字活動を行う際の、手指の基本的な動きを身に付けさせるために使用する。
- 鉛筆の持ち方、姿勢、筆圧を直すために使用する。

2 指導の流れ(例)

(1) 第1時(例)

- ① 試し書き 【鉛筆】
- ② 課題把握
- ③ 練習 【水書ペン(軟筆)】
↓
【鉛筆】
- ④ まとめ書き 【鉛筆】
- ⑤ 自己評価・相互評価
- ⑥ 日常化 【鉛筆】【フェルトペン】等)

(2) 第2時(例)

- ① 振り返り 【水書ペン(軟筆)】ウォーミングアップ・持ち方等
- ② 課題把握
- ③ 練習 【水書ペン(軟筆)】(持ち方等を直す)
↓
【鉛筆】
- ④ まとめ書き 【鉛筆】
- ⑤ 自己評価・相互評価
- ⑥ 日常化 【鉛筆】【フェルトペン】等

3 評価の考え方

- 水書きの部分での筆使い等の評価は、一切行わない。

4 準備

- ・水書用紙(1/2サイズ一人3枚程度)
- ・水書ペン
- ・書写用鉛筆

【第2学年】……丸数字でかつゴシック体で示したところが本研究で「毛筆（軟筆）」を導入した単元である。

実施時期	軟筆使用	単元名	教材等	備考
4月		・文字さがし		
		一 はじめの 学しゅう 「しせいと もち方」		
5月	①	二 かたかなの 学しゅう 「画のおわりと画のとちゅうの書き方」	「ミ」「オ」「テ」「カ」「ヒ」	
6月	②	「文字の形」	「ホ」「イ」「ニ」	
	③	「にている文字」 「かたかなのひょう」	点・はらい「ソ・ツ」「ン・シ」	
7月	④	三 かん字の学しゅう 「書きじゅん」	「土」「上」	
9月	⑤	「画の方こう」	はらい「人」「月」	
	⑥	「画の長さ、画と画の間」	「山里」「三」「出」「名」	
10月	⑦	「画のつき方・交わり方」	「作文」口・日・合・分	
11月	⑧	「文字の中心」	「光」等	
12月	⑨	「文字の形」 ・文字について	外形「図工」	
1月	○	・年がじょう ・書きぞめ	「元気な子」	
	○	・よこ書きの書き方 「にている文字」		
2月		・学しゅうしたことを生かして書こう ・書いて つたえよう		
3月		・学年の まとめ		
	○	・文字にしたしむ ・二年生で 学しゅうする かん字 ・一年生で 学しゅうした かん字		

第2学年 【軟筆】の活用について

1 目的

- 書字活動を行う前の、手指のウォーミングアップとして使用する。
- 鉛筆の持ち方、姿勢、筆圧を直すために使用する。
- 第3学年から扱う太筆の毛筆学習への、円滑な接続のために使用する。

2 指導の流れ(例)

(1) 第1時(例)

- ① 試し書き 【鉛筆】
- ② 課題把握
- ③ 練習 【水書ペン(軟筆)】 ウォーミングアップ・持ち方等を直す
⇕
【鉛筆】
- ④ まとめ書き 【鉛筆】
- ⑤ 自己評価・相互評価
- ⑥ 日常化 【鉛筆】【フェルトペン】等

(2) 第2時(例)

- ① 振り返り 【水書ペン(軟筆)】 ウォーミングアップ・持ち方等を直す
- ② 課題把握
- ③ 練習 【水書ペン(軟筆)】 ウォーミングアップ・持ち方等を直す
⇕
【鉛筆】
- ④ まとめ書き 【鉛筆】
- ⑤ 自己評価・相互評価
- ⑥ 日常化 【鉛筆】【フェルトペン】等

3 評価の考え方

- 水書きの部分での筆使い等の評価は、一切行わない。

4 準備

- ・水書用紙(1/2サイズ一人3枚程度)
- ・書写用鉛筆
- ・水書ペン(小筆タイプ・太筆タイプ)または毛筆

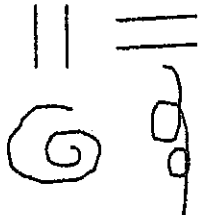
6 授業案 (学習指導案)

第1学年

第1学年国語科書写授業案 ①


全書研
4月


- 1 単元名 「せんのれんしゅう」
- 2 単元の目標
 - ・正しい姿勢や正しい持ち方で、いろいろな線や形などを書き、運筆に慣れることができる。
- 3 展開 (1時間扱い)
 - (1) 準備 水書用紙 (1/2サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B程度) 水書ペン
 - (2) 展開


	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 本時の学習内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> いろいろな せんを かいて みよう。 </div> ② 文字を書くときの基本的な線について 試し書きをする。〈ワークシート①-1〉 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 試し書きの前に、始まりの位置を確認する。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 文字を書くときの基本的な線の書き方を練習する。 【水書ペン】 水書用紙と水書ペンの使い方を知る。 いろいろな線を書く中で、基本点画の書き方を知る。 ・横画、縦画のとめ ・まがり ・むすび ・はらい 	○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水の出が悪い時は、ペンの腹を少し押す。 ○ 水書用紙は、新聞紙の上に置いて乾かし、繰り返し使う。乾きにくい時は、新聞紙で軽く押さえる。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすように助言する。 ◆ 正しい姿勢や正しい持ち方で、いろいろな線を書こうとしている。【関】 (筆使いの技能は評価しない。)
ま と め	④ 文字を書くときの基本的な線のまとめ書きをする。〈ワークシート①-2〉 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑤ 自己評価・相互評価をする。 ⑥ 次時の学習を知る。	◆ 正しい姿勢や正しい持ち方でいろいろな線を書いている。【技】 ○ 次時は、ひらがなの学習をすることを伝える。

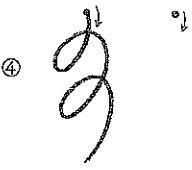
⑤	③	①	〇 ためしがき せんのれんしゅう ねん くみ なまえ
	④	②	

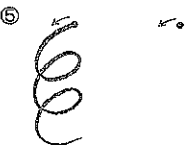
せんのれんしゅう 〇 まとめがき

① 

② 

③ 

④ 

⑤ 

①-2 児童の使用例・P46参照



▲初めて水書ペンと水書用紙を用いて基本的な線の書き方を練習しているところ。まだ正しい持ち方が意識されていない。(1年生)



▲水書ペンの持ち方を意識して、水書用紙に「つ」を練習しているところ(1年生)

第1学年国語科書写授業案 ②

全書研

5月

1 単元名 「おわりを とめる じと はらう じ」

2 単元の目標

- 鉛筆の正しい持ち方で、終筆の書き方に気を付けて書くことができる。
- 終筆（「とめ」と「はらい」）の書き方を理解して、正しく書くことができる。

3 展開（1時間扱い）

(1) 準備 水書用紙（1/2サイズ一人3枚） 鉛筆（4B程度） 水書ペン

(2) 展開

	学習活動 ☆言語活動 ・児童の反応	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	<p>① 「くつ」の試し書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。</p> <p>② 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">おわりを とめる じと はらう じを かこう。</p> </div>	<p>○ ワークシートの使い方を確認する。</p> <p>○ 試し書きの際、「くつ」の絵を示す。</p> <p>○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」</p>
展 開	<p>③ 「く」と「つ」の終筆の形の違いに気付く。 ☆ 「く」と「つ」の終筆の形のの違いについて話し合う。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>④ 「く」「つ」を練習する。 【水書ペン】</p> </div>	<p>○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。</p> <p>○ 毛筆の特徴を用いて、おわりの部分の違いに気付きやすくする。</p> <p>○ 「く」の終筆は「とめ」、「つ」の終筆は「はらい」という用語を理解できるようにする。</p> <p>○ 終筆の違いを意識しながら水書用紙に練習できるように助言する。</p> <p>○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。</p> <p>◆ 正しい姿勢や持ち方で、終筆に気を付けて書こうとしている。【関】</p>
ま と め	<p>⑤ 「くつ」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。</p> <p>⑥ 自己評価・相互評価をする。</p> <p>⑦ 終筆に気を付けながら、他の文字を書く。 「し」「へ」</p>	<p>◆ 終筆の違いを理解して、正しく書いている。 【知・技】</p> <p>○ 「し」「へ」以外にも、「く」「つ」がつく言葉などを終筆に気を付けながら書けるようにする。</p>

第1学年国語科書写授業案 ③

全書研

5月

1 単元名 「かきじゅん」

2 単元の目標

- ・正しい書き順について知り、書き順に気を付けて書くことができる。

3 展開 (1時間扱い)

(1) 準備 水書用紙 (1/2 サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B 程度) 水書ペン

(2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	<p>① 「ことり」の試し書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。</p> <p>② 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">どの じゅんばんで かくのかな。</div>	<p>○ ワークシートの使用方法を確認する。</p> <p>○ 試し書きの際、「ことり」の絵を示す。</p> <p>○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」</p>
展 開	<p>③ 「こ」「と」「り」の書き順を理解する。 ☆ つながりを意識して、書き順について話し合う。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>④ 「こ」「と」「り」を練習する。 【水書ペン】 書き順を確認してから書く。</p> </div>	<p>○ ワークシートのそれぞれの文字の一筆めに印を付け、理解できるようにする。</p> <p>○ 毛筆の特徴を用いて、画と画のつながり部分に気付きやすくする。</p> <p>○ 「かきじゅん」という言葉の意味を知らせ、それに従って書くことの大切さを理解できるようにする。</p> <p>○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。</p> <p>○ 画と画のつながりを意識させながら水書用紙に練習させる。</p> <p>○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。</p> <p>◆ 正しい姿勢や正しい持ち方で、書き順に気を付けて文字を書こうとしている。【関】</p>
ま と め	<p>⑤ 「ことり」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。</p> <p>⑥ 自己評価・相互評価をする。</p> <p>⑦ 書き順に気を付けながら、他の文字を書く。 「い」「け」「さ」</p>	<p>◆ 正しい書き順を理解して書いている。【知・技】</p> <p>○ その他にも、「こ」「と」「り」がつく言葉などを書き順に気を付けながら書けるようにする。</p>

第1学年国語科書写授業案 ④

全書研

6月

1 単元名 「せんの とちゅうの かきかた」

2 単元の目標

- ・送筆（「まがり」「おりかえし」「むすび」）の書き方について理解し、送筆の書き方に気を付けて、正しく書くことができる。

3 展開（2時間扱い）

(1) 準備 水書用紙（1/2サイズ一人3枚） 鉛筆（4B程度） 水書ペン

(2) 展開

第1時 目標 「まがり」「おりかえし」の書き方について理解し、正しく書くことができる。

1/2	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「そら」の試し書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 「まがり」「おりかえし」に きを つけて かこう。 </div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 試し書きの際、「そら」の絵を示す。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「ゲー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 「まがり」「おりかえし」の書き方を理解する。 ☆ 送筆の書き方について話し合う。 ・「まがり」 →スピードを落としてゆっくり書く。 ・「おりかえし」 →一度止まって向きを変える。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ④ 「そ」「ら」を練習する。 【水書ペン】 書き順を確認してから書く。 </div>	○ 基準の「まがり」「おりかえし」の部分に印をつけるよう助言する。 ○ 自分の書いた文字と基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 「まがり」「おりかえし」という言葉と書き方を理解できるようにする。 ○ 終筆の「とめ」「はらい」、書き順も合わせて確認する。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ※ 筆使いには言及しない。 ◆ 正しい姿勢や正しい持ち方で、送筆に気を付けて文字を書こうとしている。【関】
ま と め	⑤ 「そら」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。	◆ 「まがり」「おりかえし」の書き方を理解して、正しく書いている。【知・技】

第2時 目標 「むすび」の書き方を理解し、正しく書くことができる。

2/2	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導入	① 「はす」の試し書きをする。 〈ワークシート④-1〉 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「むすび」に きを つけて かこう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 「はす」の絵を示して、試し書きをさせる。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展開	③ 「むすび」の書き方を理解する。 ☆ 送筆の違いについて話し合う。 ・「は」→りほんむすび ・「す」→さんかくむすび <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> ④ 「は」「す」を練習する。 【水書ペン】 書き順を確認してから書く。 </div>	○ 基準の「むすび」の部分に印をつけるよう助言する。 ○ 自分の書いた文字と基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 「むすび」という言葉と書き方を理解できるようにする。 ○ 終筆の「とめ」「はらい」、書き順も合わせて確認する。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ※ 筆使いには言及しない。
まとめ	⑤ 「はす」のまとめ書きをする。 〈ワークシート④-2〉 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 教科書のひらがな表から「まがり」「おりかえし」「むすび」のある文字を見付け、練習する。	◆「むすび」の書き方を理解して、正しく書いている。 【知・技】 ◆「まがり」「おりかえし」「むすび」のある文字を見付けようとしている。 【関】

●全ワークシートについて

[注1] 基準の文字を本書では、教科書体活字で示したが、実際に使用したシートは、教科書の「手書き文字」を用いた。

[注2] 「じぶんの ひょうか」のマークについては、

}

 上段……とてもよい
 中段……よい
 下段……もう少し

 を表す。

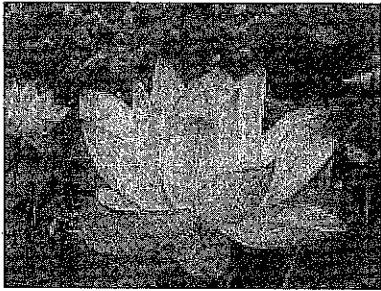
④ 「せんのとちゅうのかきかた」

1ねん くみ なまえ

--

○ ためしがき

--	--



④ 「むすび」にきをつけてかこう。

1ねん くみ なまえ

--

○ まどめがき

はす

じぶんのひょうか(○でかこむ)

~
:
=

○ かいてみよう。

第1学年国語科書写授業案 ⑤

全書研

9月

1 単元名 「かたかなの がくしゅう」

2 単元の目標

- ・片仮名の終筆（「とめ」「はらい」）と送筆（「おれ」「まがり」）の書き方を理解し、正しく書くことができる。
- ・字形が似ている片仮名について、違いに気を付けて書くことができる。

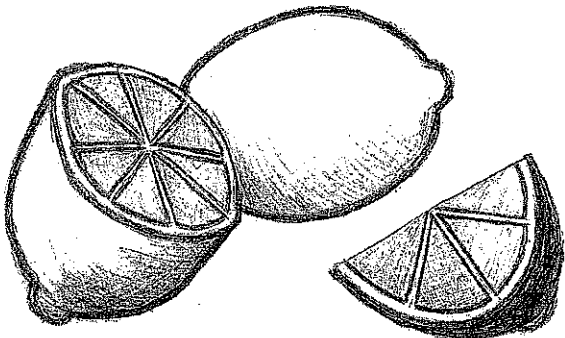
3 展開

(1) 準備 水書用紙（1/2サイズ一人3枚） 鉛筆（4B程度） 水書ペン

(2) 展開（3時間扱い）

第1時 目標 片仮名の終筆（「とめ」「はらい」）と送筆（「おれ」「まがり」）の書き方に気を付けて、正しく書くことができる。

1/3	学習活動 ☆言語活動 ・児童の反応	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「レモン」の試し書きをする。 〈ワークシート⑤-1〉 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。	○ ワークシートの使用方法を確認する。 ○ 試し書きの際、「レモン」の絵を示す。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
かたかなの「とめ」「はらい」や「おれ」「まがり」に きを つけて かこう。		
展 開	③ 片仮名の書き方を理解する。 ☆ 片仮名の書き方について話し合う。 ・始筆 → “トン”と軽くおさえる。 ・送筆「おれ」 → “トン”と止まって向きを変える。 ・送筆「まがり」 → ゆっくりまがる。 ・終筆「はらい」 → “スー”とゆっくり力を抜いて払う。 ・終筆「とめ」 → “トン”と軽くおさえて止める。 ④ 「レ」「モ」「ン」を練習する。 【水書ペン】 書き順を確認してから書く。	○ 平仮名と比較させ、片仮名の特徴をつかむ。 ○ “トン” “スー”と音声化して、理解しやすいようにする。 ○ 自分の書いた文字と基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ◆ 正しい姿勢や正しい持ち方で、片仮名の書き方に気を付けて文字を書こうとしている。【関】
ま と め	⑤ 「レモン」のまとめ書きをする。 〈ワークシート⑤-2〉 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。	◆ 片仮名の終筆と送筆の書き方を理解して、正しく書いている。【知・技】



⑤ 「かたかなの がくしゅう」

1ねん くみ なまえ

○ ためしがき

れ も ん

⑤ 「とめ」「はらい」や「おれ」「まがり」に

きを つけてかこう。

1ねん くみ なまえ

○ まとめがき

レモ ン

じぶんの ひょうか(○や か)せ

()
:
:

○ かいてみよう。

第2時 目標 字形が似ている片仮名について、違いに気を付けて書くことができる。

2/3	学習活動 ☆言語活動 ・児童の反応	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「ス」「ヌ」と「コ」「ユ」を試し書きする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ちがいに きを つけて かこう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 試し書きの際、それぞれの文字の平仮名を示す。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 「ス」「ヌ」と「コ」「ユ」の字形の違いを理解する。 ☆ 字形の違いについて話し合う。 ・「ス」→1画目に2画目が接する。 ・「ヌ」→1画目と2画目が交わる。 ・「コ」→2画目が少し出る。 ・「ユ」→2画目が長めに出る。 ④ 「ス」「ヌ」と「コ」「ユ」を練習する。 書き順を確認してから書く。 【鉛筆】	○ 基準の1画目と2画目が接するまたは交わる部分に印をつけるよう助言する。 ○ 自分の書いた文字と基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 終筆の「とめ」「はらい」、送筆の「おれ」も合わせて確認する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。
ま と め	⑤ 「ス」「ヌ」と「コ」「ユ」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 「ス」「ヌ」と「コ」「ユ」のつく言葉を書く。	◆ 字形の違いに気を付けて書いている。【知・技】 ◆ 字形の違いに気を付けながら言葉を見付けようとしている。【関】

第3時 目標 片仮名の言葉を探し、終筆と送筆に気を付けて、意欲的に書くことができる。

3/3	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">かたかなの ことばを かこう。</div>	
展 開	② 外国からきた言葉は片仮名で書くことを知る。 ☆ 片仮名で書く言葉について話し合う。 ・「アイスクリーム」「ヨット」 「チョコレート」など ③ 自分の好きな言葉を練習する。 【水書ペン】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。	○ 考えさせて、例をいくつか板書する。 ○ 平仮名の場合と比較させ、長音は「ー」で表記することを理解できるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 前時までの学習を生かして、終筆の「とめ」「はらい」、送筆の「おれ」「まがり」に気を付けて練習するよう助言する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ※ 筆使いには言及しない。
ま と め	④ 片仮名の言葉を書く。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑤ 自己評価・相互評価をする。 ⑥ 片仮名で書く言葉を考え、練習する。	◆ 片仮名の終筆と送筆の書き方を理解して、正しく書いている。【知・技】 ○ 片仮名の字形については、教科書の片仮名表を参考にさせる。 ◆ 片仮名で書く言葉を見付けようとしている。【関】

第1学年国語科書写授業案 ⑥

全書研

10月

1 単元名 「かくの おわりの かきかた」

2 単元の目標

- 漢字の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方について理解し、漢字の終筆の書き方に気を付けて、正しく書くことができる。

3 展開（2時間扱い）

(1) 準備 水書用紙（1/2サイズ一人3枚） 鉛筆（4B程度） 水書ペン

(2) 展開

1/2	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「一」「小」の試し書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> かんじの「とめ」「はね」に きを つけて かこう。 </div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 漢字の終筆「とめ」「はね」の書き方を理解する。 ☆ 漢字の終筆について話し合う。 ・ 「とめ」 → “トン” と軽くおさえる。 ・ 「はね」 → “トン” と一度止めて、方向を変え、“スッ” とゆっくり短くはねる。 ④ 「一」「小」を練習する。 【水書ペン】 書き順を確認してから書く。	○ 基準の終筆「とめ」「はね」の部分に印をつけるよう助言する。 ○ 自分の書いた文字と基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ “トン” “スー” “スッ” と音声化して、理解しやすいようにする。 ○ 「とめ」「はね」という言葉と書き方を理解できるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ※ 筆使いには言及しない。 ◆ 正しい姿勢や正しい持ち方で、終筆に気を付けて文字を書こうとしている。【関】
ま と め	⑤ 「一」「小」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑤ 自己評価・相互評価をする。	◆ 漢字の終筆「とめ」「はね」の書き方を理解して、正しく書いている。【知・技】

2/2	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「人」の試し書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> かんじの「はらい」に きを つけて かこう。 </div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 「左はらい」「右はらい」の書き方を理解する。 ☆ はらいの書き方について話し合う。 ・「左はらい」 →止まらずに“スー”とゆっくりはらう。 ・「右はらい」 →“トン”と一度止めて、方向を変え、“スー”とゆっくり右にはらう。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ④ 「人」を練習する。 【水書ペン】 書き順を確認してから書く。 </div>	○ 基準の「左はらい」「右はらい」の部分に印をつけるよう助言する。 ○ 自分の書いた文字と基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ “トン” “スー” と音声化して、理解しやすいようにする。 ○ 「左はらい」「右はらい」という言葉と書き方を理解できるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ※ 筆使いには言及しない。
ま と め	⑤ 「人」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 「とめ」「はね」「はらい」のある漢字を練習する。	◆ 漢字の終筆「はらい」の書き方を理解して、正しく書いている。【知・技】 ◆ 「とめ」「はね」「はらい」のある漢字をすすんで練習している。【関】

第1学年国語科書写授業案 ⑦

全書研

10月

1 単元名 「かくの とちゅうの かきかた」

2 単元の目標

- 漢字の送筆（「おれ」「まがり」「そり」）について理解し、正しく書くことができる。

3 展開（1時間扱い）

(1) 準備 水書用紙（1/2サイズ一人3枚） 鉛筆（4B程度） 水書ペン

(2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「日」「七」「子」の試し書きをする。 【鉛筆】 〈ワークシート⑦-1〉 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 必ず姿勢の合い言葉を言ってから書くようにする。「グー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
「おれ」「まがり」「そり」に きを つけて かこう。		
展 開	③ 漢字の送筆「おれ」「まがり」「そり」の書き方を理解する。 ☆ 漢字の送筆について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> • 「おれ」 → “トン” と一度止めて、方向を変える。 • 「まがり」 → 止めずにゆっくり方向を変える。 • 「そり」 → 止めずにゆっくり、少し丸みをつける。 	○ 基準の送筆「おれ」「まがり」「そり」の部分に印をつけるよう助言する。 ○ 自分の書いた文字と基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ おさえるところは“トン”と音声化して、理解しやすいようにする。 ○ 「おれ」「まがり」「そり」という言葉と書き方を理解できるようにする。 ○ 「そり」の終筆は必ず「はね」になるので、併せて確認する。
ま と め	④ 「日」「七」「子」を練習する。 【水書ペン】 書き順を確認してから書く。	○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 課題を意識させながら水書用紙に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ※ 筆使いには言及しない。 ◆ 正しい姿勢や正しい持ち方で、送筆に気を付けて文字を書こうとしている。【関】
ま と め	⑤ 「日」「七」「子」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 〈ワークシート⑦-2〉 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 「おれ」「まがり」「そり」のある漢字を練習する。	◆ 漢字の送筆「おれ」「まがり」「そり」の書き方を理解して、正しく書いている。【知・技】

⑦ かんじの がくしゅう

一ねん くみ なまえ

○ ためしがき

こ	しち	ひ



⑧ かんじの がくしゅう
「おれ」「まがり」「そり」に きをつけてかこう。」

○ まとめがき

一ねん くみ なまえ

子	七	日

○ さがしてみよう。

じぶんの ひょうか(○で かこむ)

〜
〜
〜

そり	まがり
子	七

第2学年

第2学年国語科書写授業案 ①

全書研

5月

- 1 単元名 「画のおわりと 画のとちゅうの書き方」
- 2 単元の目標
 - ・片仮名の終筆（「とめ」「はね」「はらい」）の書き方を理解し、正しく書くことができる。
 - ・片仮名の送筆（「おれ」「まがり」）の書き方を理解し、正しく書くことができる。
- 3 展開（1時間または2時間扱い）
 - (1) 準備 水書用紙（1/2サイズ一人3枚） 鉛筆（4B程度） 水書ペン
 - (2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「ミ」「オ」「テ」の試し書きをする。 「カ」「ヒ」の試し書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「ゲー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 片仮名の終筆「とめ」「はね」「はらい」の書き方を理解する。 片仮名の送筆「おれ」「まがり」の書き方を理解する。 ☆ 片仮名の終筆・送筆の書き方について話し合う。 ・「とめ」→“トン”と止める。 ・「はね」 →“トン”と一度止めて“スッ”持ち上げる。 ・「はらい」→“スー”と払う。 ・「おれ」 →“トン”と一度止めて、方向を変える。 ・「まがり」 →止めずにゆっくり方向を変える。 ④ 「ミ」「オ」「テ」「カ」「ヒ」を練習する。 【水書き】⇔【鉛筆】 書き順を確認してから書く。	○ 基準の終筆「とめ」「はね」「はらい」、送筆「おれ」「まがり」の部分に印をつけ、分かりやすくする。 ○ 試し書きと基準を比較させ、課題をつかむ。 ○ 止めるところは“トン”などと音声化して、理解しやすいようにする。 ○ 「とめ」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」という言葉と書き方を伝える。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップさせてから、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ◆ 正しい姿勢や持ち方で、書こうとしている。 【関】
ま と め	⑤ 「ミ」「オ」「テ」「カ」「ヒ」のまとめ書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 「とめ」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」のある片仮名を練習する。	◆ 片仮名の終筆「とめ」「はね」「はらい」の書き方を理解して、正しく書いている。 ◆ 片仮名の送筆「おれ」「まがり」の書き方を理解して、正しく書いている。【知・技】

第2学年国語科書写授業案 ②

全書研

5月

1 単元名 「文字の形」

2 単元の目標

- ・文字の外形の違いに気をつけて書くことができる。

3 展開 (1時間扱い)

(1) 準備 水書用紙 (1/2 サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B 程度) 水書ペン

(2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「ホ」「イ」「ニ」の試し書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;">文字の形に気をつけて書こう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「グー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 文字のおおよその形を理解する。 ・「ホ」→ だいたい四角 ・「イ」→ たて長の四角 ・「ニ」→ よこ長の四角 ☆ 文字のおおよその形について話し合う。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> ④ 「ホ」「イ」「ニ」を練習する。 【水書き】 ⇔ 【鉛筆】 書き順を確認してから書く。 </div>	○ 黒板にはった基準の文字に、水色の紙をあてて外形を確かめる。 ○ 試し書きと基準を比較し、課題をつかめるようにする。 ○ 試し書きに赤鉛筆で四角を書き、自分の文字の形を確かめられるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップし、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ◆ 文字の外形に気を付けて書こうとしている。 【関】
ま と め	⑤ 「ホ」「イ」「ニ」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 教科書から、外形が四角、よこ長四角、たて長四角、ひし形、三角になる文字を見つける。	◆ 文字の外形の違いに気を付けて、正しく書いている。【知・技】

第2学年国語科書写授業案 ③

全書研
6月

1 単元名 「にている文字」

2 単元の目標

- ・字形が似ている片仮名を点画の方向の違いに気を付けて、正しく書くことができる。

3 展開 (1時間扱い)

(1) 準備 水書用紙 (1/2サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B程度) 水書ペン

(2) 展開

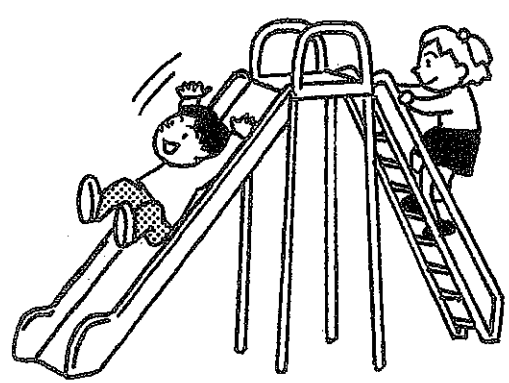
	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「ソ」「ツ」の試し書きをする。 〈ワークシート③-1〉 「ン」「シ」の試し書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 「点」と「はらい」の方こうに気を付けて書こう。 </div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「ゲー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 形が似ている片仮名の「点」と「はらい」の方向を理解する。 ☆ 「ソ・ツ」「ン・シ」の書き方を話し合う。 ・ 「ソ・ツ」→ 平仮名の「つ」のように左から右に書く。 上から下に払う。 ・ 「ン・シ」→ 平仮名の「し」のように上から下に書く。 下から上に払う。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ④ 「ソ」「ツ」「ン」「シ」を練習する。 【水書き】⇔【鉛筆】 書き順を確認してから書く。 </div>	○ 基準の「はらい」の部分に印をつけ、分かりやすくする。 ○ 試し書きと基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップし、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ◆ 形が似ている片仮名の「点」と「はらい」の方向に気を付けて書こうとしている。【関】
ま と め	⑤ 「ソ」「ツ」「ン」「シ」のまとめ書きをする。【鉛筆】 〈ワークシート③-2〉 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 片仮名の表を見て、「上から下へはらう文字」と「下から上へはらう文字」を探して書く。	◆ 似ている文字の「点とはらいの方向」を理解して、正しく書いている。【知・技】 ◆ 片仮名の表から、「上から下へはらう文字」と「下から上へはらう文字」を探して書いている。 <div style="text-align: right;">【関】</div>

かたかなの学しゅう
「にて いる 文字」

二年 組 名前

○ ためしがき

し	ん	っ	そ



『点』と『はらい』の方こうに気をつけてかこう。」

二年 組 名前

○ まどめがき

基準

ツ		
ツ		
ン		
ン		

○ かいてみよう。

じぶんの ひょうか(○で かこむ)
 ()
 ()
 ()

第2学年国語科書写授業案 ④

全書研

7月

- 1 単元名 かん字の学しゅう「書きじゅん」
- 2 単元の目標
 - ・書き順の原則を確認して、書き順どおりに漢字を正しく書くことができる。
- 3 展開 (1時間扱い)
 - (1) 準備 水書用紙 (1/2 サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B 程度) 水書ペン
 - (2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「土」「上」の試し書きをする。 <div style="text-align: right;">【鉛筆】</div> 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">書きじゅんに気をつけて書こう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「ゲー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 漢字の書き順の大原則を確認し、「土」、「上」の書き順を理解する。 ・書き順の大原則 上から下へ 左から右へ ・「十」→ 1画目 横画 ・「上」→ 1画目 縦画 ☆ 漢字表を見て、「土」、「上」と同じきまりで書く文字の書き順について話し合う。	○ 試し書きの1画目にしるしをつけ、比較しやすいようにする。 ○ 色分けした基準を提示する。「土」は横画、「上」は縦画 ○ 試し書きと基準の比較により、課題をつかめるようにする。 ◆ 「土」「上」と同じきまりで書く文字を見つけようとしている。【関】
ま と め	④ 「土」「上」を練習する。 <div style="text-align: center;">【水書き】 ⇔ 【鉛筆】</div> 書き順を確認してから書く。 ⑤ 「土」「上」のまとめ書きをする。 <div style="text-align: right;">【鉛筆】</div> 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 片仮名と同じ部分の漢字の書き順、書き順に気を付ける文字について、書き順を確認してから書く。	○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップし、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ○ 同じきまりで書く文字も自由に練習できるようにする。 ◆ 書き順の原則を確認して、書き順どおりに漢字を正しく書いている。【知・技】

硬筆用練習用紙〈例〉

○ れんしゅうじょう。

第2学年国語科書写授業案 ⑤

全書研

7月

- 1 単元名 かん字の学しゅう「画の方こう」
- 2 単元の目標
 - ・「はらい」「おれ」「そり」「点や画」の方向の違いを理解して、正しく書くことができる。
- 3 展開 (1時間または2時間扱い)
 - (1) 準備 水書用紙 (1/2 サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B 程度) 水書ペン
 - (2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「人」「月」の試し書きをする。 〈ワークシート⑤-1〉【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 画の方こうに気をつけて書こう。 </div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 画の方向の違いを理解する。 ☆ 画の方向について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「人」→ ななめに払う。 ・「月」→ 始めは下に、最後に少し ななめに払う。 ・「人」の仲間 → 「会」 ・「月」の仲間 → 「朝」 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> ④ 「人」「月」を練習する。 【水書き】⇔【鉛筆】 書き順を確認してから書く。 教科書を見て、仲間の漢字も練習する。 </div>	○ 教科書で「はらい」という名称を確認する。 ○ 試し書きと基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 試し書きの「はらい」の部分に○をつけ、ねらいを明確にする。 ○ 漢字表で「人」の仲間、「月」の仲間の払いの方向を確かめられるようにしておく。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップし、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。
ま と め	⑤ 「人」「月」のまとめ書きをする。 〈ワークシート⑤-2〉【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 教科書を見て、「おれ」「そり」「点や画」の同じ仲間の文字を探して書く。	◆「はらい」の方向の違いを理解して、正しく書いている。【知・技】 ◆ 仲間の漢字も進んで書こうとしている。【関】

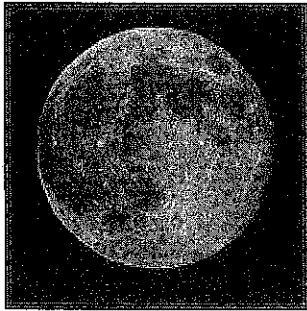
⑤ かん字の学しゅう

二年 組 名前

○ ためしがき

ひと

つき



⑤ 「画の方こうに 気をつけてかこう。」

二年 組 名前

○ まどめがき

人

月

じぶんの ひょうか(○で かこむ)

♡
:
:
|

○ かいてみよう。

おれ

そり

点画

第2学年国語科書写授業案 ⑥

全書研

9月

1 単元名 かん字の学しゅう「画の長さ、画と画の間」

2 単元の目標

- ・画の長さの違いを理解し、正しく整えて書くことができる。
- ・画と画の間のあけ方を理解し、正しく整えて書くことができる。

3 展開 (1時間または2時間扱い)

(1) 準備 水書用紙 (1/2サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B程度) 水書ペン

(2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「山」「里」の試し書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">画の長さ、画と画の間に気をつけて書こう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 「山」「里」それぞれの「画の長さ」「画と画の間」の書き方を理解する。 ☆ 「画の長さ」「画と画の間」の書き方について話し合う。 ・「山」→ 縦の画の間が同じ。たて画の長さが違う。中央が長い。 ・「里」→ 横画の間が同じ。一番下の横画が長い。 ☆ 他の文字でも「画の長さ」を考える。 ・「三」→ 三画目が長い。 ・「出」→ 中央が長い。 ・「名」→ ななめの画、二画目が長い。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">④ 「山」「里」を練習する。 【水書き】⇔【鉛筆】 書き順を確認してから書く。 「山」「里」以外の字も教科書を見て、自由に練習する。</div>	○ 基準の「画の長さ」「画と画の間」に印をつけ、理解を助ける。 ○ 試し書きと基準を比較させ、課題をつかむ。 ○ 「三」の横画の長さ、「出」のたて画の長さ、「名」のななめの画の長さを確かめるよう指示する。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップし、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。
ま と め	⑤ 「山」「里」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 教科書に載っている他の字について、画の長さ、画と画の間に気を付けて書く。	◆ 画の長さの違いを理解して、正しく整えて書いている。【知・技】 ◆ 画と画の間のあけ方を理解して、正しく整えて書いている。【知・技】 ◆ 他の文字にも生かして練習しようとしている。【関】

第2学年国語科書写授業案 ⑦

全書研
10月

- 1 単元名 かん字の学しゅう「画のつき方・交わり方」
- 2 単元目標
 - ・画のつき方・交わり方を理解し、正しく整えて書くことができる。
- 3 展開 (1時間または2時間扱い)
 - (1) 準備 水書用紙 (1/2サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B程度) 水書ペン
 - (2) 展開

	学習活動	○指導・支援上の留意点 ☆評価
導 入	① 「作」「文」「口」「日」「会」「分」の試し書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">画のつき方・交わり方に気をつけて書こう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉を確認する。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 画のつき方・交わり方を理解する。 「つく」「交わる」とは、どのような状態かを理解する。 ☆ 画のつき方・交わり方について話し合う。 ・「作」→ 横画とたて画がつく位置。 ・「文」→ 左払いと、右払いが交わる位置。 ・「口」→ 「口」は横画が出る。「口」以外は縦画が出る。 ・「日」→ 二画目のおれの方向がまっすぐの場合、縦画の終筆が出る。 ・「会」→ 左払いと右払いは、つく。 ・「分」→ 左払いと右払いは、はなす。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">④ 「作」「文」「口」「日」「会」「分」を練習する。 【水書き】⇔【鉛筆】 書き順を確認してから書く。</div>	○ 試し書きと基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 自分の書いた試し書きの文字の、画のついているところ、交わっているところに、赤鉛筆で印をつけ、課題をつかみやすくする。 ○ 「画のついているところ」「まじわっているところ」が理解できるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップさせてから、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ◆ 「画のつき方」「交わり方」に気を付けて書こうとしている。【関】
ま と め	⑤ 「作」「文」「口」「日」「会」「分」のまとめ書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 「口」のつき方、「日」のつきかたの文字を漢字表から見つける。	◆ 画のつき方・交わり方を理解して、正しく整えて書いている。【知・技】

第2学年国語科書写授業案 ⑧

全書研

10月

1 単元名 かん字の学しゅう「文字の中心」

2 単元の目標

- ・文字の中心に気をつけて、正しく整えて書くことができる。

3 展開

(1) 準備 水書用紙 (1/2サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B程度) 水書ペン 透明シート

(2) 展開 (1時間または2時間)

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「光」「半」の試し書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">文字の中心に気をつけて書こう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「グー ベタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 文字の中心がどこにあるかを理解する。 ・「光」→ 一目目のたて画が中心 ・「半」→ たて画が中心 ・「間」「切」「遠」「心」 → 中心のわかりにくい文字 ☆ 文字の中心がどこかを話し合う。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> ④ 「光」「半」を練習する。 【水書き】⇔【鉛筆】 書き順を確認してから書く。 透明シートで中心を確認しながら練習する。 </div>	○ 基準文字の中心を示す。 ○ 試し書きと基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 試し書きに、中心線を入れた透明シートを載せて確かめられるようにする。 ○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップし、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 鉛筆で練習する時には、文字の中心をマスの中にそろえて書くようにさせる。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ◆ 文字の中心に気を付けて書こうとしている。 【関】
ま と め	⑤ 「光」「半」のまとめ書きをする。 【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 一年生の漢字一覧表から、たて画が中心になっている文字を探して書く。	◆ 文字の中心に気をつけて、正しく整えて書いている。【知・技】 ◆ たて画が中心となっている文字を見つけようとしている。【関】

第2学年国語科書写授業案 ⑨

全書研

11月

- 1 単元名 かん字の学しゅう「文字の形」
- 2 単元の目標
 - ・文字の外形を理解し、正しく整えて書くことができる。
- 3 展開 (1時間扱い)
 - (1) 準備 水書用紙 (1/2サイズ一人3枚) 鉛筆 (4B程度) 水書ペン
 - (2) 展開

	学習活動 ☆言語活動	○指導・支援上の留意点 ◆評価
導 入	① 「囟」「工」「目」「今」「上」の試し書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ② 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">文字の形に気をつけて書こう。</div>	○ ワークシートの使い方を確認する。 ○ 書き始める前は、必ず姿勢の合い言葉で確認する。「グー ペタ ピン 中指枕 天使の輪」
展 開	③ 「囟」「工」「目」「今」「上」の書き方を理解する。 ☆ 文字の外形について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「囟」→ だいたい四角 ・「工」→ 横長の四角 ・「目」→ 縦長の四角 ・「今」→ ひし形 ・「上」→ 三角 	○ 既習の片仮名の外形を振り返る。 ○ 試し書きと基準を比較させ、課題をつかめるようにする。 ○ 試し書きの文字のまわりを囲む作業を通して、外形をつかめるようにする。 ○ 外形を表す言葉は、児童の言い方でまとめてもよい。
ま と め	④ 「囟」「工」「目」「今」「上」を練習する。 【水書き】⇔【鉛筆】 書き順を確認してから書く。 教科書を見て、他の文字や言葉も自由に練習する。	○ 水書ペンの持ち方、姿勢は、鉛筆の場合と同様に指導する。 ○ 水書きでウォーミングアップし、鉛筆で練習用紙に、水書ペンで水書用紙に自由に練習できるようにする。 ○ 手首や手指の力を抜き、ゆっくり動かすようにする。 ◆ どのような外形かを考えながら書こうとしている。【関】
ま と め	⑤ 「囟」「工」「目」「今」「上」のまとめ書きをする。【鉛筆】 姿勢の合い言葉を言ってから書く。 ⑥ 自己評価・相互評価をする。 ⑦ 一年生の漢字一覧表から、外形が四角、横長四角、縦長四角、ひし形、三角になる文字を見つけて書く。	◆ 文字の外形を理解して、正しく整えて書いている。【知・技】 ◆ 外形が同じ文字をみつけようとしている。【関】

7 児童の文字の変容と考察

(1) 文字の変容の分析

【第1学年】

毎時間の練習の時間に

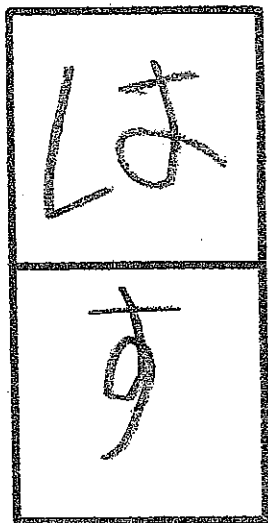
- a 「水書ペンのみを使用して書写の学習を行った学級」と、
 - b 「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」
- とを比較したところ、次のような結果が得られた。

① 終筆や送筆の変化

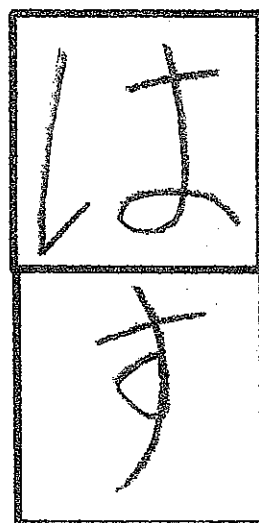
一単位時間の学習における試し書きとまとめ書きを比較したところ、平仮名の「とめ」「はらい」については、a「水書ペンのみを使用して書写の学習を行った学級」とb「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」において、上達した児童の割合に大きな差は認められなかった。

しかし、「むすび」については、a「水書ペンのみを使用して書写の学習を行った学級」の児童の上達の割合が、b「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」の2倍程度であった。

試し書き



まとめ書き



② 字形の変化

2か月半後、児童の文字（平仮名）の変化を比較したところ、字形を整えて書くことができるようになった児童は、a「水書ペンのみを使用して書写の学習を行った学級」の児童より、b「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」の児童の方が1割程度多かった。

【第2学年】

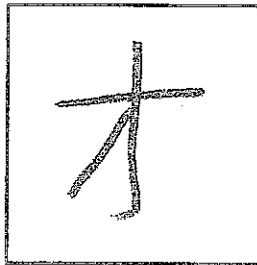
毎時間の練習の時間に

c「水書ペンと鉛筆の両方を使用して書写の学習を行った学級」と、
d「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」
とを比較したところ、次のような結果が得られた。

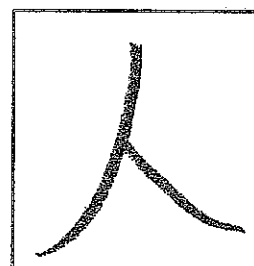
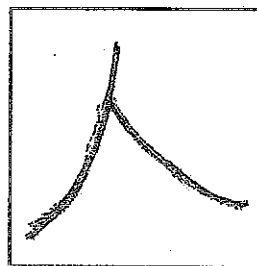
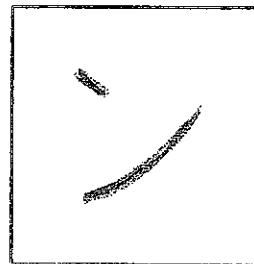
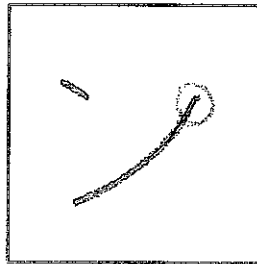
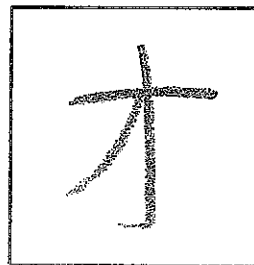
① 終筆の変化

一単位時間の学習における試し書きとまとめ書きを比較したところ、「はらい」については、片仮名、漢字ともに、c「水書ペンと鉛筆の両方を使用して書写の学習を行った学級」の児童の上達の割合が、d「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」の2倍以上であった。

試し書き



まとめ書き



② 字形の変化

一単位時間の学習における試し書きとまとめ書きを比較したところ、字形については、c「水書ペンと鉛筆の両方を使用して書写の学習を行った学級」と、d「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」において、上達した児童の割合に大きな差は認められなかった。

しかし、1単位時間集中することができず、試し書きよりまとめ書きの方が雑になってしまった児童の割合は、d「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」が約30%、c「水書ペンと鉛筆の両方を使用して書写の学習を行った学級」が約14%であり、d「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」の方が2倍程度多かった。

(2) 考 察

〈手指の基本的な動きの習得について〉

第1学年において平仮名の「とめ」「はらい」について、水書ペン（以下、軟筆という）で練習した児童と硬筆のみで練習した児童で、上達した児童の割合に大きな違いが見られなかった点について、平仮名の「とめ」「はらい」の学習が軟筆を使用した学習の2回目であったため、児童が使い方に慣れておらず、十分に活用できなかつたことが考えられる。このことは、軟筆の使用が5回目となった「むすび」の学習において、軟筆を使用したグループの方が、2倍程度の児童に効果が認められたことからわかる。

また、片仮名の送筆・終筆について、軟筆で練習した児童と硬筆のみで練習した児童の割合に大きな違いが見られなかったが、これも片仮名特有の運筆に慣れていなかったため、練習の成果を硬筆に生かすことができなかつたと考えられる。このことは、第2学年において、片仮名・漢字の運筆に慣れた状態で、軟筆を使用したグループの方が、片仮名・漢字ともに「はらい」の改善に2倍以上の改善が認められたことからわかる。ある程度の慣れが必要ではあるが、軟筆を使用することにより、児童に筆先の力を抜く感覚を身につけさせることに効果があると考えられる。

以上のことから、第1学年の平仮名の「むすび」の上達や、第2学年の片仮名・漢字の「はらい」の改善など、軟筆を取り入れた書写の学習を続けることにより、書字活動を行う際の、手指の基本的な動きを身に付けさせることに一定の効果があつたと考えられる。

〈字形について〉

第1学年の字形について、鉛筆のみで学習したグループの方が整えることができた点については、以下のような理由が考えられる。すなわち a「水書ペンのみを使用して書写の学習を行った学級」では、水書ペンを使用する際、水書用紙に自由な大きさに練習していたため、鉛筆の文字に字形の面が反映されにくかつたことが原因であると思われる。このことは、第2学年の字形について、c「水書ペンと鉛筆の両方を使用して書写の学習を行った学級」においても d「鉛筆のみで書写の学習を行った学級」と同様に鉛筆の練習はマス目のある用紙で行っていたため、字形の上達の割合に大きな差異が見られなかつたことから明白である。

今後は、第1学年で軟筆のみで練習する場合は、水書用紙に適切な大きさのマス目を印刷するなど、児童が字形についても意識できるような工夫をしていくことにより、より効果を高めることができると考えられる。

〈授業への集中力について〉

今回の研究授業の副産物として、水書ペンを使用した学級の担任は、水書ペンを使用することで、45分間の授業に変化が生まれ、児童が最後まで授業に集中することができるようになったと実感している。特に第2学年では、鉛筆のみで練習した場合、授業が単調になり、文字を書くことへの集中が続かなくなつた結果、まとめ書きの方が雑になつた児童の割合が多くなつたと考えられる。また、硬筆、軟筆、硬筆と授業の節目節目で姿勢を確認することで、児童に正しい姿勢の定着を図ることができる。

一単位時間の授業の中で、一定時間の軟筆を取り入れることにより、指導の有効性を高めていくことができると考える。

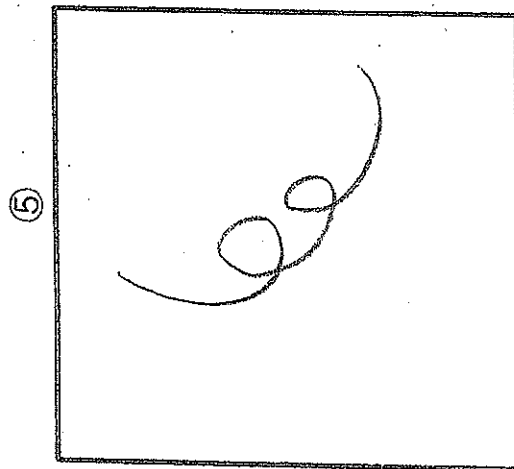
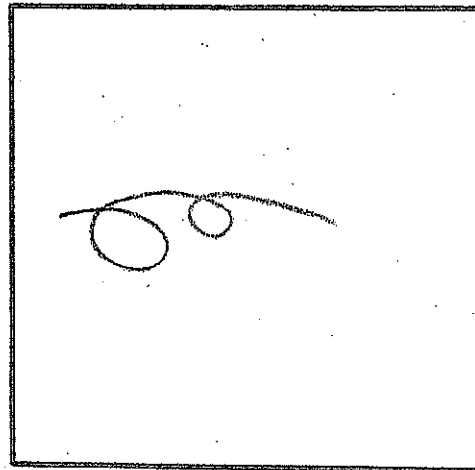
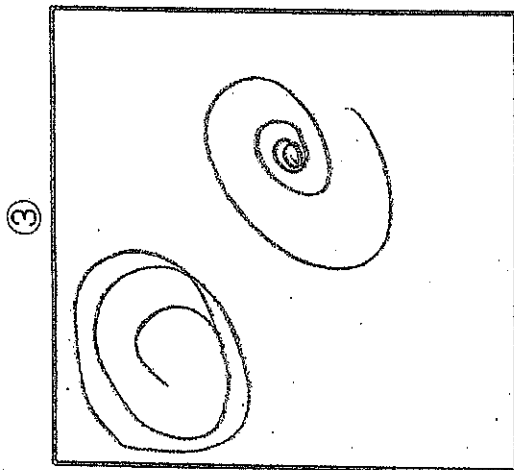
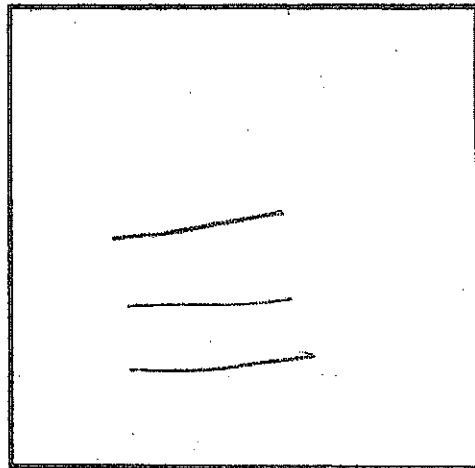
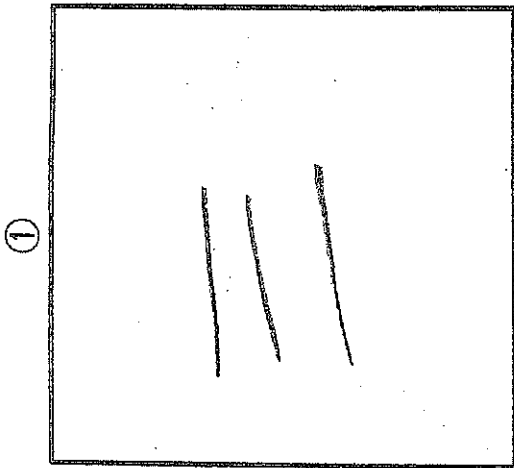
〈鉛筆の持ち方について〉

鉛筆では癖のある持ち方をしている児童も、水書ペンを持つときには自ずと正しい持ち方になる。しかし、鉛筆に持ち替へたとき、またもとの癖のある持ち方に戻ってしまう児童も多いため、水書ペンを繰り返し使用させることによって、定着を図っていく必要がある。

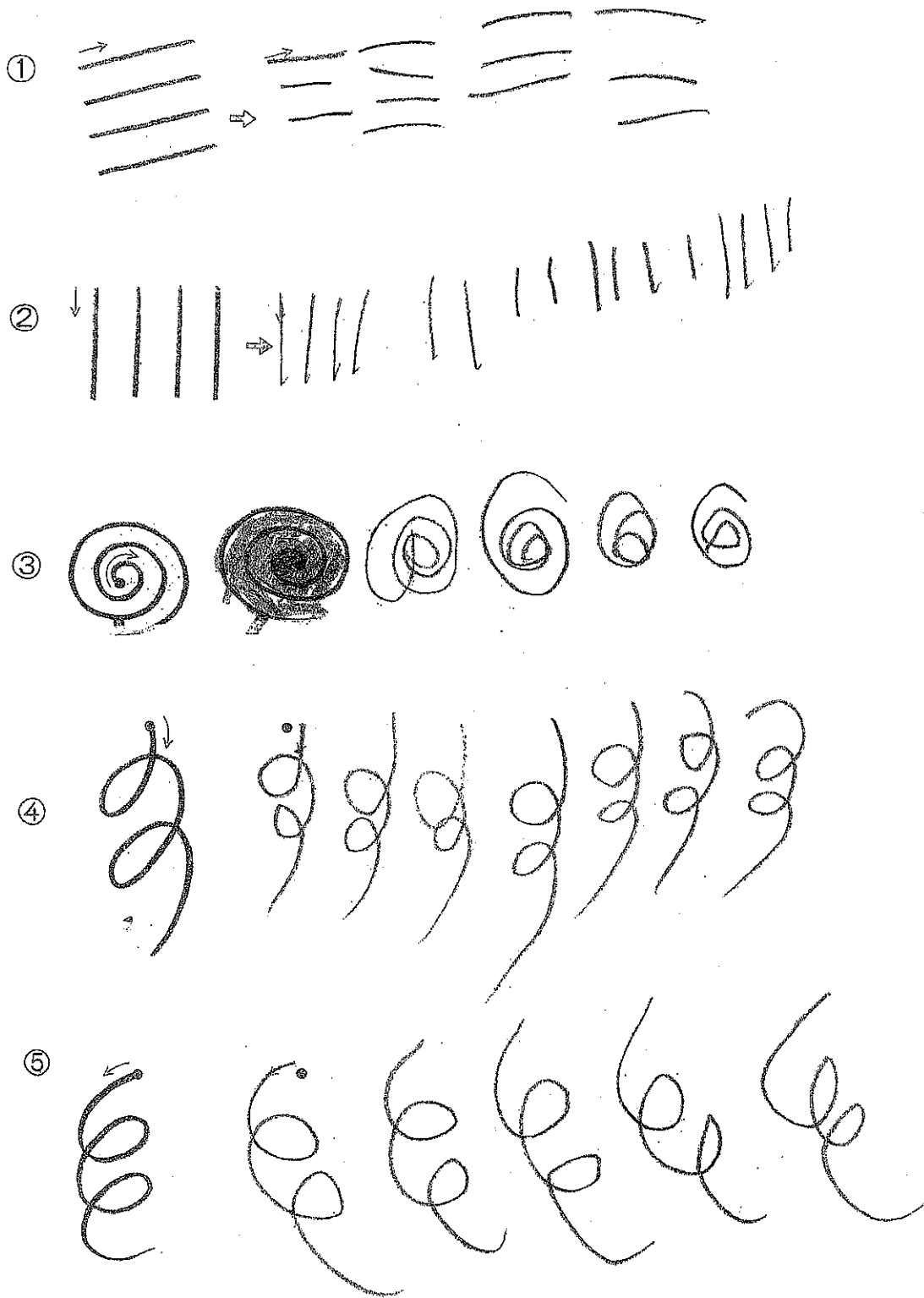
(3) 水性ペンを使用して学習した一児童 (A 児) の変容について

① せんのれんしゅう

〈ためしがき〉



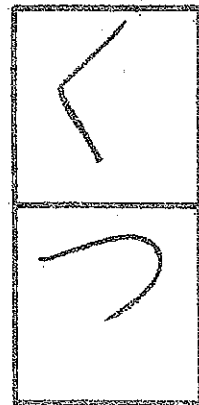
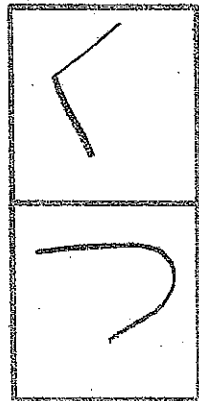
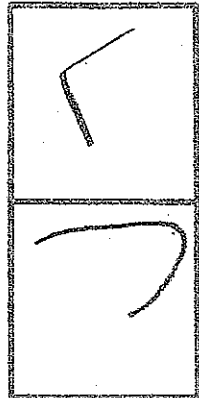
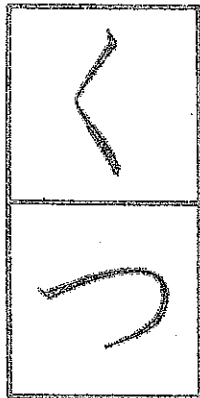
〈まとめがき〉



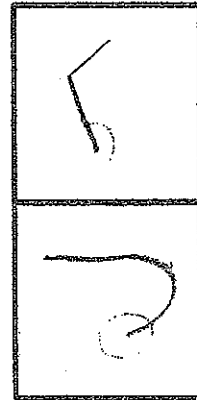
〈考察〉

書写の学習で初めて水書ペンを使用した。扱い方に慣れていなかったこともあり、A児は慎重に水書ペンを扱っている様子が見られ、約10分間の練習時間の中で、十分な練習ができなかったようであった。そのため、試し書きとまとめ書きにあまり違いは見られなかった。

② ひらがな「おわりをとめるじと はらうじ」



○ まとめがき



○ ためしがき



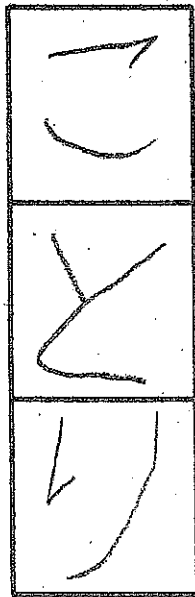
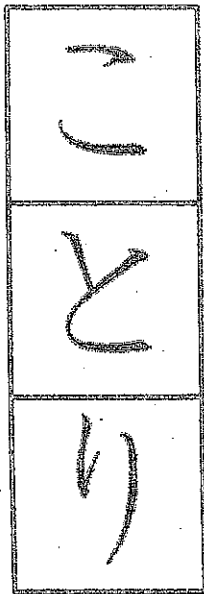
じぶんの ひょうか (○でかこむ)

〈考察〉

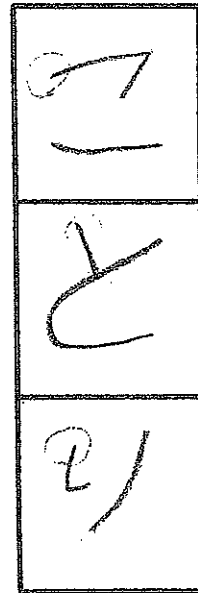
試し書きでは、「つ」の終筆を止めている。

水書ペンで練習した後の鉛筆でのまとめ書きでは、終筆を払おうと意識して書いている様子が見られ、3回目で終筆を払うことができています。

③ ひらがな「かきじゅん」



○ まとめがき



○ ためしがき



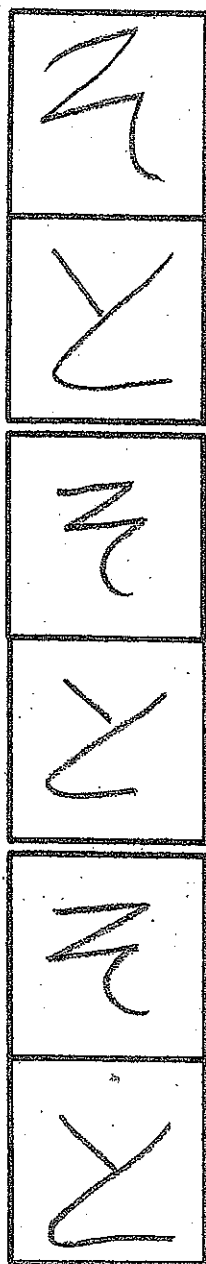
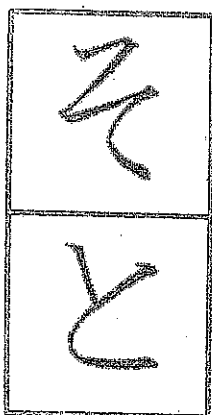
じぶんの ひょうか (○でかこむ)

〈考察〉

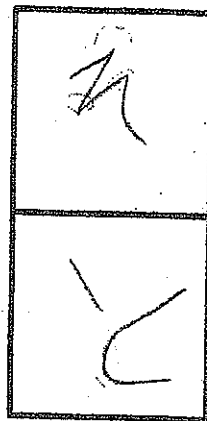
試し書きは、一筆めと二筆めのつながりを意識して書けていない。また、「り」の終筆を払っていない。

水書ペンで練習した後の鉛筆でのまとめ書きでは、「こ」「り」ともに、一筆めと二筆めのつながりを意識して書くことができています。また、「り」の終筆を払うことができています。しかし、「こ」の終筆も払ってしまっているほか、字形を整えることができていない。

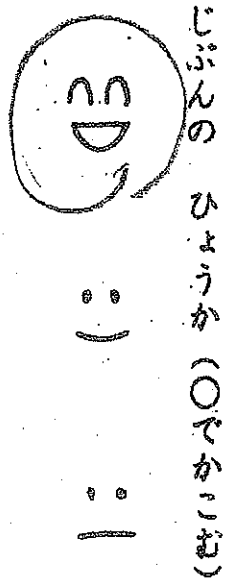
④ ひらがな「まがり」「おりかえし」



○ まとめがき



○ ためしがき



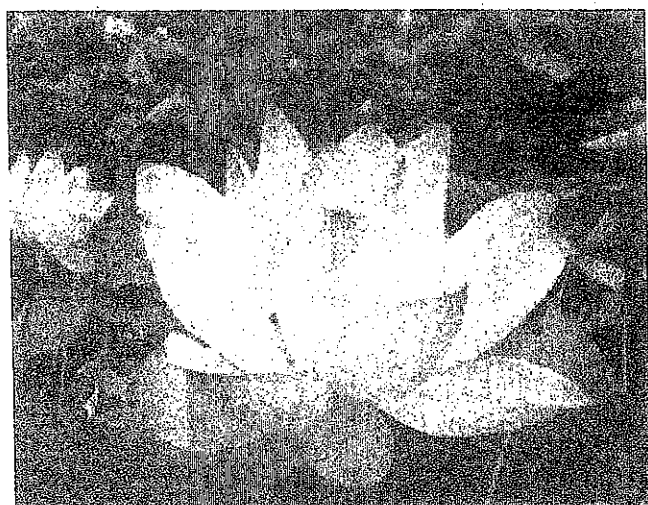
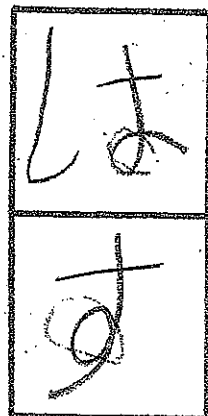
〈考察〉

試し書きでは、「おりかえし」と「まがり」はある程度できているが、傾いたり、離れていたり、字形が安定していない。

水書ペンで練習した後の鉛筆でのまとめ書きでは、「おりかえし」がしっかりし、方向は修正できている。「そ」の終筆を払っていることと、「まがり」の滑らかさにはまだ課題が残る。

ひらがな「むすび」

○ ためしがき



む	よ
お	な
み	ま
は	ぬ
す	る
む	ほ

○ かいてみよう。

は
す



じぶんの ひょうか (○でかこむ)

い
い
い

は
す
は
す
は
す

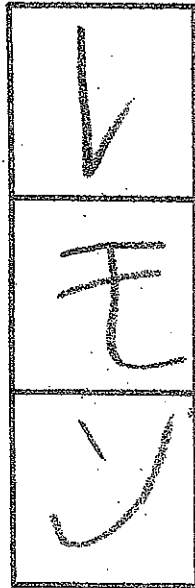
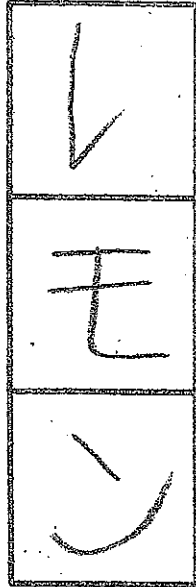
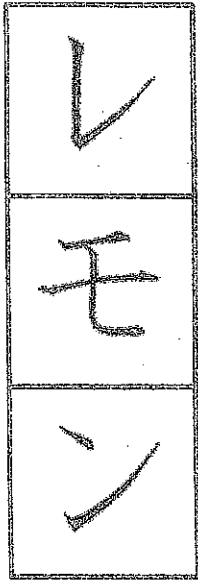
○ まとめがき

〈考察〉

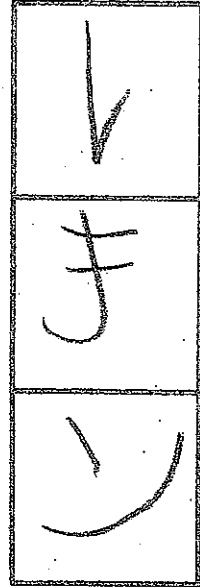
試し書きでは、「むすび」を丸く結んでいて、「むすび」の形を整えることができていない。

水書ペンで練習した後の鉛筆でのまとめ書きでは、むすびの後の終筆の方向に気をつけて書こうとしている様子が見られる。また、「す」のむすびの形を意識して書こうとしており、3回目には三角の形状に書くことができています。また、「日常化」として、五十音表の中からむすびのある文字を見つける活動も意欲的に行っており、形に気をつけながら書こうとしている様子が見られる。

⑤ かたかな「とめ」「はらい」「おれ」「まがり」



○ まとめがき



○ ためしがき

れ
も
ん



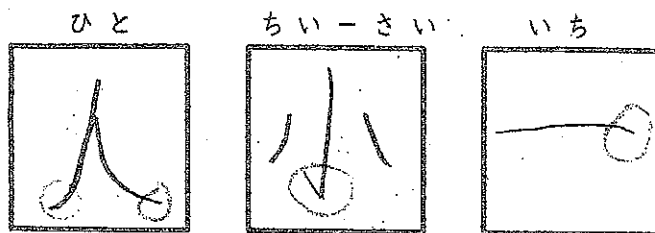
じぶんの ひょうか (○でかこむ)

〈考察〉

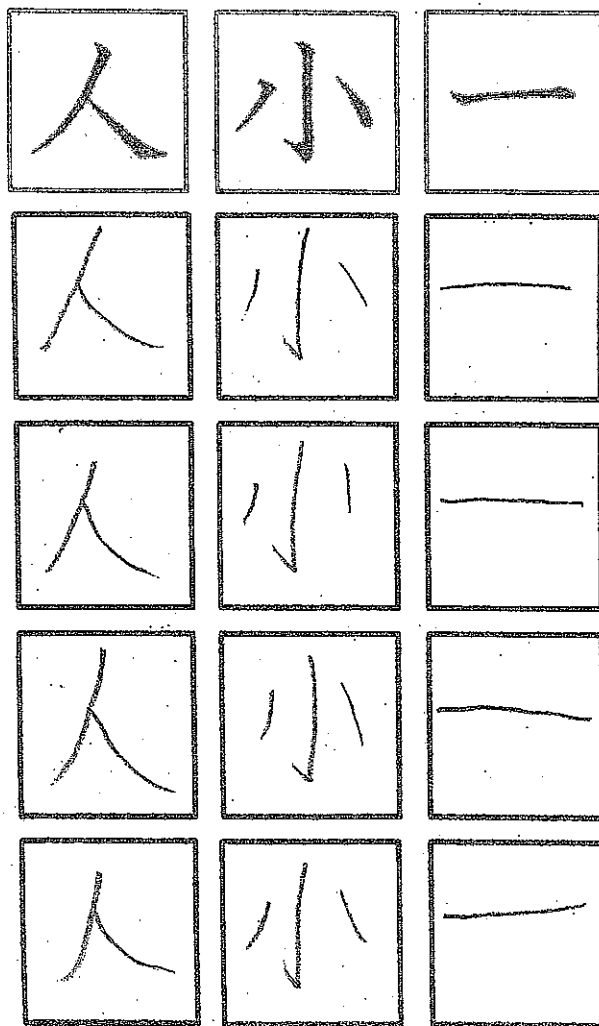
試し書きでは、「ン」の終筆を払うことができていない。

水書ペンで練習した後の鉛筆でのまとめ書きでは、「ン」の終筆を払うことを意識して書くことができています。字形は整えることができていない。

⑥ かんじ「かくの おわりの かきかた」



○ ためしがき



○ まとめがき



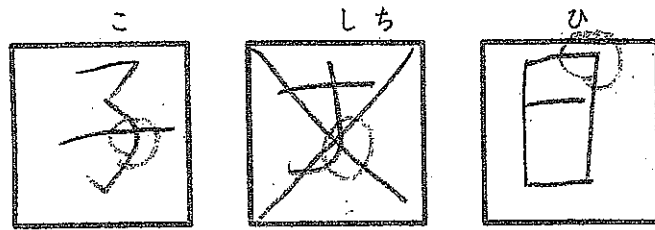
じぶんの ひょうか (○でかこむ)

〈考察〉

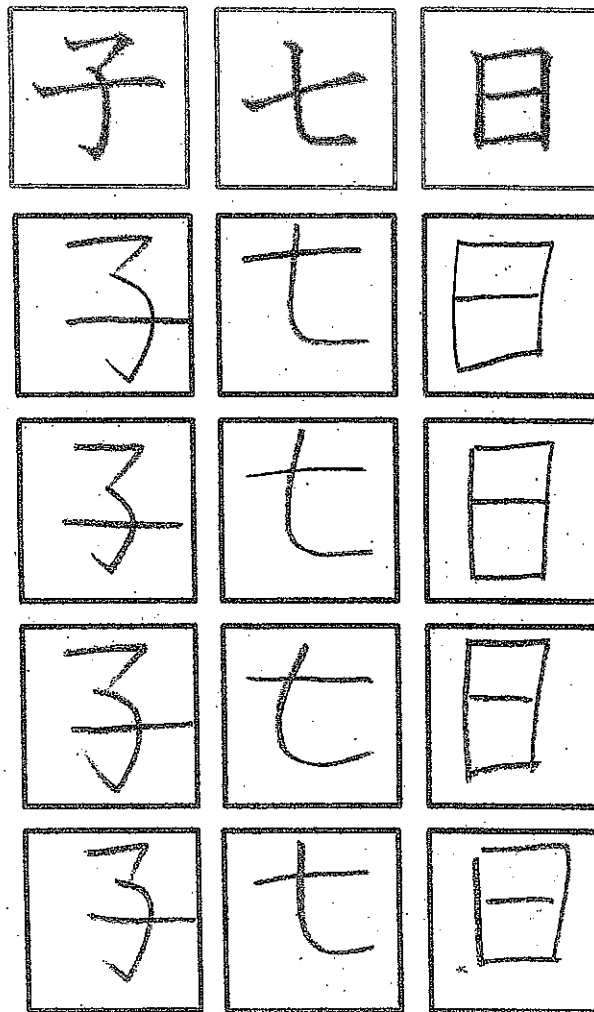
試し書きでは、「一」の終筆の「とめ」、「小」の縦画の終筆の「はね」はできているが、「人」の「右払い」と「左払い」ともにできていない。

水書ペンで練習した後の鉛筆でのまとめ書きでは、「人」の「右払い」「左払い」ともに意識して力を抜いて書けるようになっている。

⑦ かんじ「かくの とちゅうの かきかた」



○ ためしがき
○ まとめがき



じぶんのかきかた
ひょうか(○)か(こ)び

〈考察〉

水書ペンによる学習を繰り返してきた結果、試し書きから「とめ」「はね」の終筆や「まがり」等の送筆を意識して書こうとしている様子が見られる。

水書ペンで練習した後の鉛筆でのまとめ書きでは、試し書きと同様「とめ」「はね」の終筆、「そり」「まがり」「おれ」の送筆を意識して書くことができている。字形を整えることにはまだ課題が残る。

⑧ 9月の「ひらがな」と12月の「ひらがな」の比較

全体的に、線が滑らかになっていることから、手指の動きが滑らかになっていることが考えられる。

a 終筆を払うべき文字の終筆を払えるようになっている。

「し」「も」「つ」「う」「ら」「ろ」「ち」「の」「め」「あ」「お」「れ」「わ」

反面、終筆を止めるべき文字を払っているものもある。

「い」「て」「そ」

〈9月〉

み あ た ま ゆ ろ す さ し

ヒ
ビ

ふ お な よ け ろ む き も

フ
ル
ン

か れ て の に と こ う へ

へ
ビ

や あ そ め は ち い え へ

せ ね ひ め ほ ま り ろ つ

ん

- b 「むすび」の形に気をつけて書こうとしている。
「む」「ほ」「な」
- c 「まがり」「大回り」が滑らかになっている。
「ら」「と」「ゆ」「の」「め」「あ」「お」「わ」

〈12月〉

み あ 太 ま ゆ ろ す さ し

ふ お な よ け る む き も

か れ て の に と こ う く

や わ そ め は ち い え へ

せ 友 ひ め ほ を り ら っ

ん

8 児童アンケート結果と考察

水書ペンを使用した授業を実施した4小学校において、授業を受けた1、2年生を対象としたアンケート調査を行った。アンケート項目は以下のとおりで、該当するものすべてに○をつけるという方法で行った。

【アンケート項目】

1. たのしかった。
2. おもしろかった。
3. じがじょうずになった。
4. いっぱいれんしゅうできてうれしかった。
5. また、水書ペンをつかいたい。
6. かいたじがきえるのがたのしい。
7. かいたじがきえるのがいやだ。
8. ふで・えんぴつのもちかたをきにするようになった。
9. とめ・はね・はらいのやりかたがわかった。
10. じをかくときに、ちからのいれかたにきをつけるようになった。
11. じをかくのがすきになった。
12. また、こんなしょしゃのじゅぎょうをしてみたい。

【アンケート集計結果】

① 第1学年

	A小学校 30	B小学校 50	C小学校 59	D小学校 25	合計 158
1	27 (90%)	44 (88%)	58 (98%)	21 (84%)	150 (94%)
2	26 (87%)	34 (68%)	57 (96%)	18 (72%)	135 (85%)
3	23 (77%)	39 (78%)	45 (76%)	17 (68%)	124 (78%)
4	28 (93%)	41 (82%)	56 (94%)	22 (88%)	147 (93%)
5	28 (93%)	44 (88%)	57 (96%)	23 (92%)	152 (96%)
6	19 (63%)	30 (60%)	50 (94%)	17 (68%)	116 (73%)
7	10 (33%)	12 (24%)	30 (50%)	7 (28%)	59 (37%)
8	25 (83%)	35 (70%)	49 (83%)	11 (44%)	120 (75%)
9	27 (90%)	46 (92%)	57 (96%)	23 (92%)	153 (96%)
10	25 (83%)	42 (84%)	52 (88%)	18 (72%)	137 (90%)
11	23 (77%)	36 (72%)	50 (84%)	18 (72%)	127 (80%)
12	26 (87%)	46 (92%)	58 (98%)	19 (76%)	149 (94%)

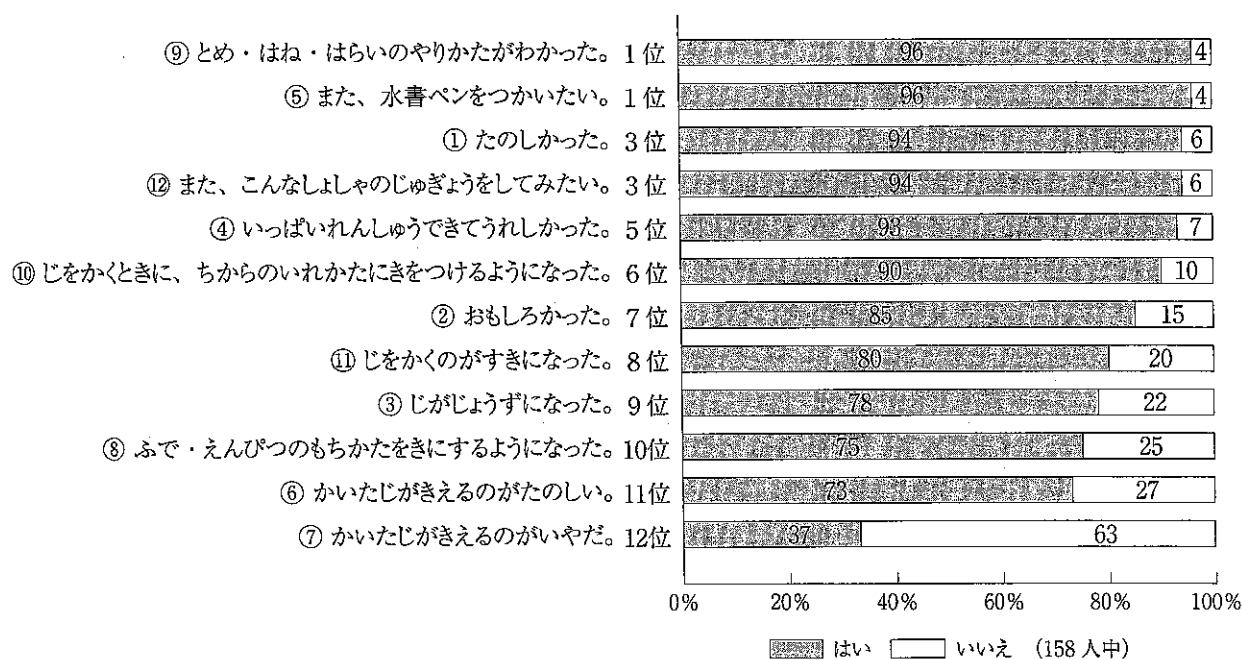
●第1学年による考察1

○学校による多少の差はあるものの、全体としてはほぼ同じような傾向が見られた。水書ペンを使用した授業を「楽しかった」「また、やりたい」と答える児童が、いずれも94%と多かった。

- ・ 1、2については、平均すると85%を超える高い数値を示している。「たのしい」と「おもしろい」を、ほぼ同じ意味ととらえる児童、区別してとらえる児童によって違いが出ていると考える。
- ・ 3については、他の項目と比べると低い数値となっている。日頃、児童は文字の上手下手を字形によってとらえることが多い。学習のねらいを水書ペン使用による筆圧のコントロールや力を入れすぎない持ち方においているため、児童は字形の面での達成感を感じにくかったとも考えられる。水筆ペンを使用する目的と効果、児童の意欲と達成感について考えていく必要がある。
- ・ 6、7は水書用紙の特性についての項目である。「消えるのが楽しい」の方が多いが、他の項目に比べて低い数値であり、楽しさや意欲への影響はさほど高くないと考える。むしろ、水書ペンで書くことそのものへの興味・関心の高さがうかがわれる。
- ・ 8、9、10は水筆ペンの指導効果をもっとも表れると考える項目である。とくに、力の入れ方（筆圧のコントロール）を意識する児童が、第1学年で平均90%と高い数値であることは、水筆ペン導入の成果であると考えられる。

●第1学年による考察2

上記集計結果を、多い順に並び替え、グラフにすると次のようになる。



② 第2学年（第1学年との比較） ※第1学年結果再掲

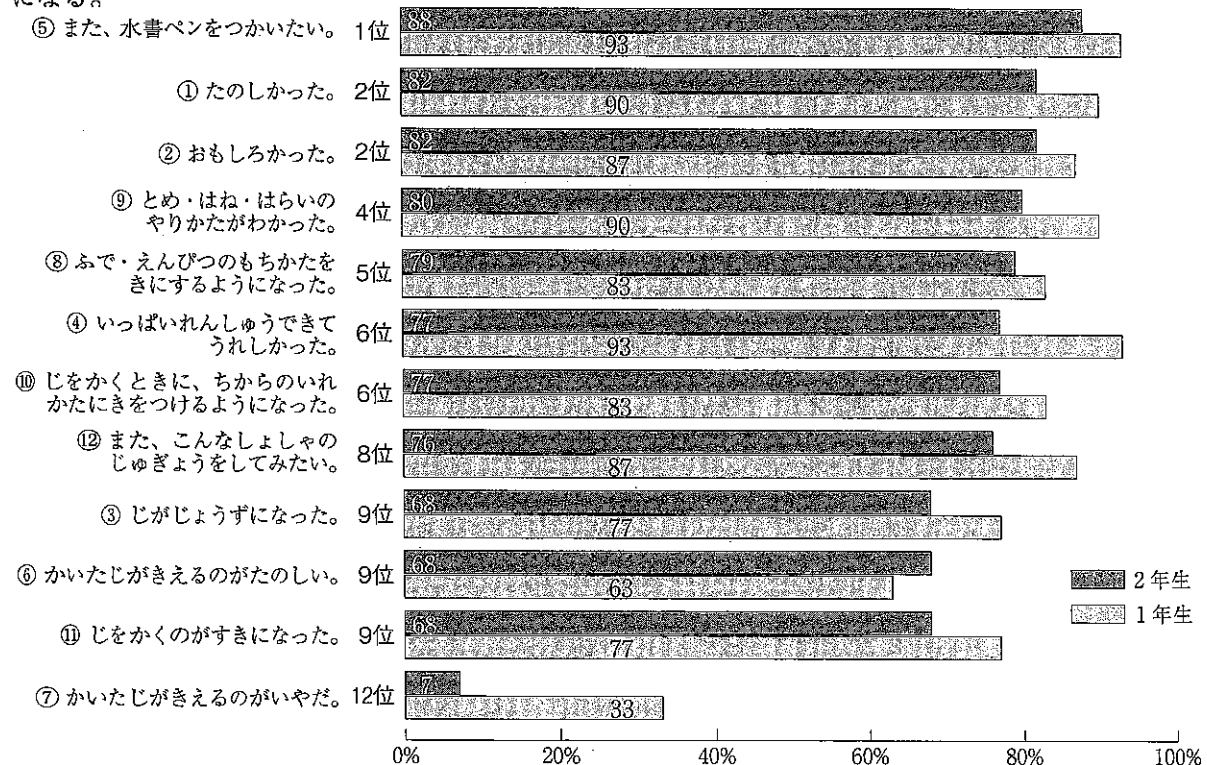
	A小学校 63（第2学年）	A小学校 30（第1学年）	① 表①の第1学年のみの 全校の合計 158
1	52 (82%)	27 (90%)	150 (94%)
2	52 (82%)	26 (87%)	135 (85%)
3	43 (68%)	23 (77%)	124 (78%)
4	49 (77%)	28 (93%)	147 (93%)
5	56 (88%)	28 (93%)	152 (96%)
6	43 (68%)	19 (63%)	116 (73%)
7	5 (7%)	10 (33%)	59 (37%)
8	25 (79%)	25 (83%)	120 (75%)
9	51 (80%)	27 (90%)	153 (96%)
10	49 (77%)	25 (83%)	137 (90%)
11	43 (68%)	23 (77%)	127 (80%)
12	48 (76%)	26 (87%)	149 (94%)

●第2学年及び第1、第2学年の比較についての考察1

○第2学年の調査は1校のみであるが、傾向は第1学年と似ている。一方で1項目（⑥番）をのぞいて第1学年より低い数値である結果から、水書ペン導入は第1学年からが望ましいのではないかと考えられる。

●考察2

A小学校による2年生と1年生による比較、前者を多い順に並び替えグラフにすると、次のようになる。



9 教員の感想

- 鉛筆では、「とめ」「はね」「はらい」がはっきりしないため、うまく指導できなかった。しかし水書ペンでは「とめ」「はね」「はらい」の筆使いがはっきりするので指導に有効であった。
- 児童は鉛筆・ノート以外の筆記用具（水書ペン・水書用紙）を使って書いたので、興味をもって授業に臨んでいた。学習を繰り返すうちにめあてをよく理解して、鉛筆書きのときよりも集中して水書きに取り組んでいた。また、書写の時間を楽しみにする児童が増えた。
- 水書きを行ったことにより1時間の中で顕著な上達が見られる児童が多くなった。自分がめあてを達成したという実感があるので振り返りの時間を楽しみにしている児童が多い。まとめ書きの方が試し書きより上達していることを実物投影機で映して、全体で確かめ合うことができた。
- 「魔法の紙」（水書用紙）は時間がたつと消えてしまうので失敗が残らず、楽しく感じている様子である。また、他の教科の時間に比べ書写の時間は文字を丁寧に書くようになった。
1時間の中で、姿勢や筆記具の持ち方について繰り返し指導したことで、その都度、児童に正しい姿勢や持ち方について意識させることができた。
- 課題を追求する学習なので、練習時間の私語がなくなった。
- 水書ペンを使用したことで「始筆」「終筆」を意識する児童が増えた。また、指導していてその違いをとらえやすい。
- 鉛筆では、筆圧で文字の濃さに違いが出るが、水書ペンでは、筆の使い方や力の入れ具合で書いた文字の点画の形や太さに違いが出ることを体感させることができた。
- 鉛筆では評価されることが少なかった児童の中に、水書ペンではめあてを達成できた児童がいた。その児童を認め、ほめることを通して、意欲的に書写学習に取り組ませることができた。

10 保護者のアンケート結果

水書ペンを使用した授業を参観した保護者にアンケートをとったところ、以下のような結果が得られた。

(1) 自分の子どもの文字について

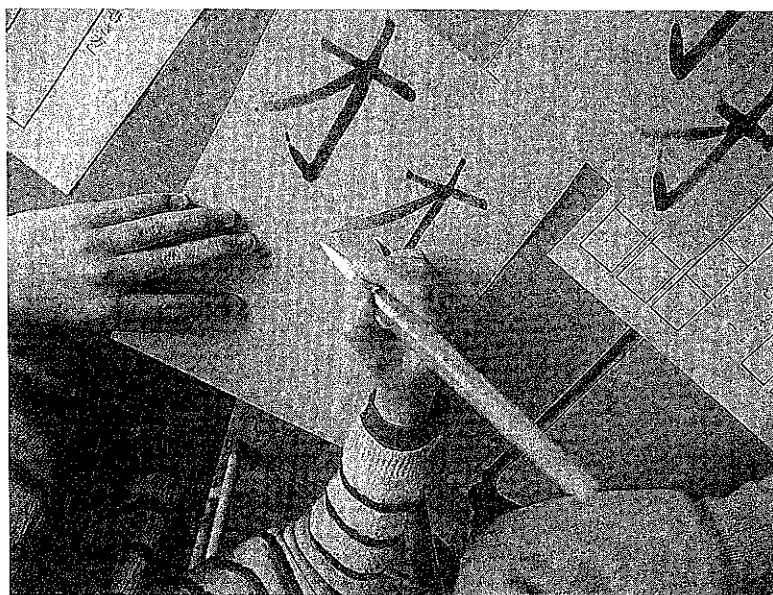
約6割の保護者が課題があると感じており、その内容は、文字を丁寧に書こうとしないことや、書き順を間違えていることなどであった。

(2) 水書ペンの購入について

約6割の保護者が学校予算で購入して使わせたいと考えており、また、自費で購入して使わせたいと回答した保護者も約4割いた。(複数回答のため重複あり)

(3) 水書ペンを使用した授業を見た感想

- ・小さい頃から筆の感覚に親しむのはよいことだと感じた。
- ・リズムよく体を使って、「はらい」や「とめ」を覚えるのはとても良い。
- ・水書きは皆楽しそうに取り組んでいた。
- ・集中力アップにつながると思う。
- ・子どもが書写は好きな授業だと言っていた。本当にできているか疑問だったが、自分の子を含め学級全員の子どもがきちんと取り組んでいて驚いた。



▲水書ペンを用いた2年生の授業より

11 まとめ

① 検証のための研究授業・アンケート等の結果から分かってきたこと

- 毛筆（軟筆）を使用することにより、その軸の太さと穂の柔らかさによって、1年生、2年生とも、硬筆（鉛筆）で書くよりも書字の時に力をかけずに済み（力まずに書け）、自然と鉛筆の持ち方、筆圧が正しくなる。
- 毛筆（軟筆）を使用した学級は、毛筆（軟筆）を使用しなかった学級に比べ、「とめ」「はね」「はらい」等の筆使いに関わる意識が高まる。
- 毛筆（軟筆）を使用した学級では、正しい「はらい」「むすび」ができる児童が多くなり、筆圧の調整を理解するとともにそれを実践できる。
- 硬筆だけで指導した学級においては、45分の授業時間の中で集中力が続かなくなる時間帯ができてしまうが、毛筆（軟筆）を展開の時間に入れることで、意識が変わり、児童の集中力が持続する。また、姿勢や筆記具の持ち方も意識させることができた。
- 展開の中で毛筆（軟筆）を入れる時間の長さは10分程度が適当で、それ以上長いとまた飽きて遊び始めてしまう。
- 今回の研究授業の毛筆（軟筆）を使う場面ではマスを使わなかったが、字形に関しては、マスを付けた水書用紙（練習用紙）を使う方が整う。
- 教員も児童も水書きペンと水書用紙を使用することには筆と墨を使用する毛筆学習よりも導入に抵抗感がない。また、保護者も汚れないことで好意的に受け止めている。

② 今後の課題

○ 用具の開発

〈水書きペンに関すること〉

- ・軸の長さとおさ（水タンクの大きさを含む）
- ・穂の長さとおさ
- ・穂の柔らかさと材質

〈水書用紙に関すること〉

- ・用紙の大きさと素材
- ・罫の入れ方（マスの大きさ）

○ 用具の扱い方

- ・小筆や細い水書きペンの持ち方（筆持ちか鉛筆持ちか）
- ・用具負担金をどこが負担するか（保護者か学校か）

○ 第3学年の毛筆書写へのスムーズな移行

- ・どの段階で筆と墨を使用する学習に移行するか
- ・第1学年、第2学年の指導内容と第3学年以降の指導内容をどのように分けるか

これらの課題については今後も全日本書写書道教育研究会特別研究委員会小学校部会で研究していく予定である。

12 委員会の記録

■ 第1回特別研究委員会小学校部会記録

平成26年4月3日(木) _____ 会場 南大塚文化創造館

1 メンバー確認 ()内は全書研での役職

顧問・相談役	加藤祐司(副会長)	長野秀章(理事長)
委員長	宮絢子(研究局長)	
副委員長	青山浩之(調査部長)	廣瀬裕之(関東大学部長)
研究委員	押木秀樹(監査)	並木玲子(広報部長)
	土上智子(研究局小学校部長)	玉置克也(事務局次長)
	高島一広(事務局長)	

2 検討内容

- 報告書作成は今年度中を目指す。
- 27年4月より報告書の内容を実践してもらえるように全書研として発信する。
- 26年度は都小書研の4校で研究してもらう。
水書き、毛筆のプレ学習等 何通りかの方法を比べられるとなおよい。
- 筆遣いは動画で残せるとよい。
- 汚さない道具を工夫する。
- 軟筆から書道用具への研究も行っていく。
- 軟筆の持ち方は小筆と一緒にする。(小筆の持ち方の基準は後日検討)

■ 第2回特別研究委員会小学校部会記録

平成26年5月8日(木) _____ 会場 東京家政大学

1 主な今後の予定

- 9月から検証のための研究授業を開始し、12月までに行う。
- 実践内容は集録形式でまとめておく。
- 報告書は3月に出来上がるようにする。
- 全書研高知大会で途中経過報告を行う。

2 研究内容について

- 先行研究に学ぶ。(次回東京学芸大学小金井小学校の実践を参観)
- 現行指導要領の範囲で研究を行う。書写の学習に軟筆の指導を入れる。
- 水書ペン、水書用紙を用いて研究する。墨の使用は今後検討。
- 指導効果について指導者から意見をもらう。(できれば保護者の意見も)
- 必要となる教材 水書用紙、水書ペン、水書き用毛筆(大小)、硬筆
- 必要に応じて調査を行う。

3 次回まで行っておくことの確認

- 軟筆指導をできる単元の洗い出し、調査前例の確認。

4 予算の検討

■第3回特別研究委員会小学校部会記録

平成26年5月28日(水) _____ 会場 東京学芸大学附属小金井小学校

I 授業参観

単元名 かたかなの学しゅう (2年生)

『にている文字を、「てん」や「はらい」のほうこうに気をつけて書こう』

指導者 東京学芸大学附属小金井小学校教諭 笥 理沙子 先生

II 研究協議

1 あいさつ

① 加藤泰弘先生

② 長野理事長

2 自評(笥先生)

- ・昨年秋から水書きを実践した。子どもたちは最初から楽しそうだった。
- ・始筆は指導していない。
- ・「はね」「はらい」に効果が出ている。

今日の学習について

- ・「点の向きやはらいの方向」がめあて。意識して書けるようになっていた。漢字やカタカナなど日常生活のなかで生かせるようにしたい。
- ・書いてすぐ乾くのが楽しい。
- ・水を入れ忘れると大変困る。準備をしっかりさせていく。

3 細川先生より

- ・T君の変化を見ていた。軟筆の効果がよく確認できた一人。
- ・昨年度の実践について → プリント参照
- ・軟筆を使うことで筆使いに変化が見られる。

4 参観者より

感想、意見等

水書き指導に関してのまとめ

※良い点

- ・簡便である
- ・汚さない
- ・筆使いの学習ができる

※今後の課題

- ・軟筆を使用する目的をはっきりさせる
- ・軟筆を使用しての練習後、硬筆へのつなぎ、まとめ書きをどうするか
- ・軟筆から毛筆書写への移行をどうするか

5 質疑(抜粋)

※今後の課題

- ・毛筆書写への移行をどうするか。

例 水書ペン → 小筆で水書き → 中筆で水書き → 3年生へ

※全部洗っても大丈夫な小筆を開発中。

- ・小筆の持ち方をどうするか、洗うことについてはどうするかも検討が必要。
- ・水書きから墨への移行はどうか。

その他

- ・小学校4校の実践記録は、廣瀬先生に提出し、まとめてもらう。

以上全体会

今後の実践について

- ・1年生は2学期から行える。(カタカナ、画の途中、画の終わり)
- ・1年生は運筆中心で指導したい。(とめ、はね、はらい)
- ・2年生は漢字の指導で。字形での指導は扱いにくい。(個別指導の中で筆使いを扱う)
- ・1、2年生は、字形指導が中心だったが「どう書くか」も大事にする。そこに注目して研究する。
- ・2年生でも細かな場面で、フィードバックして書き方の指導をする。
- 字形指導だったものを「書き方」に目を向けさせることが水書きの効果。手書き過程の指導を水書きで行う。
運筆の手の運動が理解できていれば、中学校学習の行書の学習にも対応できる。
- 音声化にも注目していく。
- ◎筆使いの学習を中心に水書きでの学習を研究していく。

■ 第4回特別研究委員会小学校部会報告

平成26年7月18日

会場 東京家政大学

- 1 宮委員長あいさつ、書写・書道教育の充実に関する要望書の確認
- 2 指導の形式について

江戸川区立大杉第二小学校の実践(土上校長先生)をもとにした協議

【毛筆(水書ペン)を使わせる時】

- ・1年生の書写導入時の授業を実践(せんのれんしゅう)
- ・自由に書かせる。筆圧の調整ができず(わからず)、力を入れてぎゅっと書いてしまう子が多い。「軽く持ってそっと書いたら線がうまく書けた」という子どものつぶやきもあり、そっと書く指導をしたら、くるくるライン等を上手に書ける子が増えた。水書ペンの実践を通し、太い線(強く書く)や細い線(やさしく書く)が書けることを学んでいる。
- ・水書ペンは軽いから、これを使うことによって鉛筆の持ち方が忠実にできる。
- ・水書用紙は、半分にして使用した。
- ・水書ペンに直接水道水を入れる方がやりやすい。ふたは、外して本体だけを子どもに渡した。
◇筆圧が強い理由 ・持ち方? ・筆先?
◇水書ペンの活用は、基本点画の前の段階で運筆に慣れられることを目的にする。
◎低学年から毛筆を使って指導することで、児童の硬筆文字に影響するのか、硬筆指導がより効果的にできるかを確かめるためには、参加した全児童の結果を確かめなければならない。
◇毛筆を導入するクラス、水書ペンを使わないクラスへの保護者へ説明について。
→筆の持ち方、筆圧の癖を直す実践であること。結果が出た後使用可能。
◎学習指導計画(筆使い)をもう一度確認する。
◇1、2年で毛筆を使えば、3、4年は何をやるのか? 毛筆をなぜやるのか?
→1、2年は筆圧や運筆の癖を直すために毛筆を使用させる。手、指の運動を滑らかにするた

め。ウォーミングアップに毛筆（軟筆）を使用する。

【毛筆・水書ペンはどこで？】

- ・ 1年
つかみ（導入部） 運筆に慣れさせる 手、指の動作
- ・ 2年
ウォーミングアップ 準備運動的なもの

次回までに1年生の指導略案を土上先生が作りメールで配信する。小学校校長は内容を確認しておく。

■第5回特別研究委員会小学校部会報告

平成26年9月2日（火） _____ 会場 東京家政大学

1 宮委員長あいさつ

2 授業案（学習指導案）検討

(1) 第1学年国語科書写授業案（略案）

①4月単元名「せんのれんしゅう」

- ・ いろいろな線⇒留意点に、どんな線なのか具体的に線を示す。

1年生の書写の教科書参照。

- ・ 水書ペンの持ち方は、鉛筆の持ち方で。

②5月単元名「おわりをとめるじとはらうじ」

- ・ よい鉛筆の持ち方で、・・・⇒鉛筆の正しい持ち方で、・・・
学習指導要領でも示されている「正しい」を統一して使う。

③5月単元名「かきじゅん」

④5月単元名「せんのとちゅうのかきかた」

- ・ 筆順、筆脈の指導で、毛筆を活用するかしないか協議。結局、計画通り・授業案通りに水書ペンを使って実施することで決定。

⑤9月単元名「かたかなのがくしゅう」

- ・ 水書ペンは活用しないで硬筆（鉛筆）のみで学習

⑥10月単元名「かくのおわりのかきかた」

⑦10月単元名「かくのとちゅうのかきかた」

- ・ 授業案通り。

(2) 【水書き】の活用について

- ・ 2年生同様、1年生用も作成する。
- ・ 1年生の目的：書字活動を行う際の、手指の基本的な動きを身に付けさせる。
- ・ 2年生では硬筆・毛筆（軟筆）双方向での授業を行うが、1年生では双方向では行わない。
- ・ 軟筆（水書き）の実践は、8～10分と授業案に明記する。
- ・ 水書きの評価はしない。

3 確認事項

- ・ 全国大学書写書道教育学会から水書ペンを活用している小学校低学年での書写授業を撮影したビデオを同学会シンポジウム（10月14日・埼玉大学にて）において放映したいとの依頼が

あった。大杉第二小学校・土上校長先生に依頼。

- 報告書必要部数について
- 12月までに、委員4校で授業実践する。 ⇒月ごとにメールでお知らせする。

■ 第6回特別研究委員会小学校部会報告

平成26年11月10日（月） _____ 会場 江戸川区立大杉第二小学校

全書研特別研究委員会小学校部会の授業公開が行われ、全書研特別研究委員、書写書道教育推進協議会実務者会、生産者連盟、新聞社から合計17名が参加した。

活発な協議が行われ、このときの模様は毎日新聞の11月27日号に掲載された。

1 日時

平成26年11月10日（月） 9:35～12:30

2 内容

公開授業 2校時 1年生 9:35～10:20
3校時 2年生 10:40～11:25
協議 11:35～12:30

3 協議内容

- ①書写書道教育推進協議会実務者会代表あいさつ（石飛先生）
- ②生産者連盟代表挨拶（青柳会長）
- ③学年における水書き導入の考え（土上校長）
- ④協議

■ 第7回特別研究委員会小学校部会報告

平成26年12月18日（木） _____ 会場 東京家政大学

1 宮委員長あいさつ

2 検討事項

- ①低学年での毛筆（軟筆）指導の時間について
 - 1、2年生は毛筆に対する時間の明示がないため、具体的な時間を決めにくい。
 - ねらいに沿ってとすると、1年は10時間、2年生は20～30時間くらいか。
- ②特別研究委員会小学校部会小学校部会（検証のための研究授業）のまとめ方について
 - 江戸川区立大杉第二小学校（土上智子校長先生）の研究授業を中心にまとめていく。
 - 1時間の授業案を1ページとし、その時間の成果を横に並べる。
 - 児童・保護者にアンケートを取り、結果を載せる。*児童アンケート別紙
 - 報告書作成のプロットは、廣瀬副委員長が考える。
 - 2月中旬までに原稿を仕上げる予定。

3 確認事項

- 報告書印刷部数→500部

■第8回特別研究委員会小学校部会報告

平成27年1月16日(金)

会場 東京家政大学

1 宮委員長あいさつ

2 検討事項

① 児童アンケート結果

- ・アンケート項目の中で、2校で「5 また水書ペンをつかいたい」「9 とめ・はね・はらいのやりかたがわかった」と回答した児童の割合が高かった(9割以上)。

② 第1学年で水書ペンを使用した学級と使用しなかった学級における変容の分析

- ・平仮名の「むすび」は、水書ペンを使用した学級の方が2倍程度達成率が高かった。
- ・授業5回分の試書で筆圧が強かった児童について、水書ペンを使用しなかった児童は筆圧が全く改善していないが、水書ペンを使用した児童の2割程度が筆圧の改善が見られた。
- ・第2学年では、あまり特徴的な変容がないようなのでさらに結果を詳しく分析する。

③ 「小学校第1・2学年における毛筆(軟筆)導入の試み」のプロット

- ・表題は、上のとおり。中学校部会とそろえられるところはそろえる。

1 はじめに(長野) 2 研究の目的と方法(宮)

3 本委員会開催日(高島) 4 研究授業実施日(玉置)

5 用具について、年間学習指導計画、第1学年授業案、ワークシート・分析に使った单元3か所程度、児童の変容・考察(土上)

6 第2学年授業案、児童アンケートまとめ・考察(並木)

4 確認事項

- ・次回までに各自分担の原稿を仕上げる。原稿ができしだい、廣瀬先生に送る。
- ・青山先生が全体を通して校正する。

■第9回特別研究委員会小学校部会報告

平成27年2月20日(金)

会場 東京家政大学

1 宮委員長あいさつ

2 原稿読みあわせ並びに校正

13 全日本書写書道教育研究会特別研究委員会

小学校部会 委員一覧

顧問・相談役	加藤 祐司（副会長）	東京学芸大学名誉教授
	長野 秀章（理事長）	東京学芸大学教授
委員長	宮 絢子（研究局長）	東京家政大学准教授
副委員長	青山 浩之（調査部長）	横浜国立大学教授
	廣瀬 裕之（関東大学部長）	武蔵野大学教授
研究委員	押木 秀樹（監査）	上越教育大学教授
	並木 玲子（広報部長）	葛飾区立東綾瀬小学校長
	土上 智子（研究局小学校部長）	江戸川区立大杉第二小学校長
	高島 一広（事務局長）	江戸川区立篠崎小学校長
	玉置 克也（事務局次長）	葛飾区立南奥戸小学校長

報告書

—小学校低学年（第1・2学年）に対する 毛筆（軟筆）指導・導入に関する研究及び検証—

発行日 平成27年3月31日

発行者 長野 秀章
(全日本書写書道教育研究会理事長)

編集 全日本書写書道教育研究会
特別研究委員会小学校部会

発行 全日本書写書道教育研究会
本部・事務局
〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町3-2-18
東京都江戸川区立篠崎小学校内
全日本書写書道教育研究会
事務局長 高島 一広 (校長)
TEL 03-3679-1223
FAX 03-3676-2973

印刷 株式会社 文伸
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀1-12-17
三鷹ビジネスパーク2号館
Tel. 0422-60-2211
